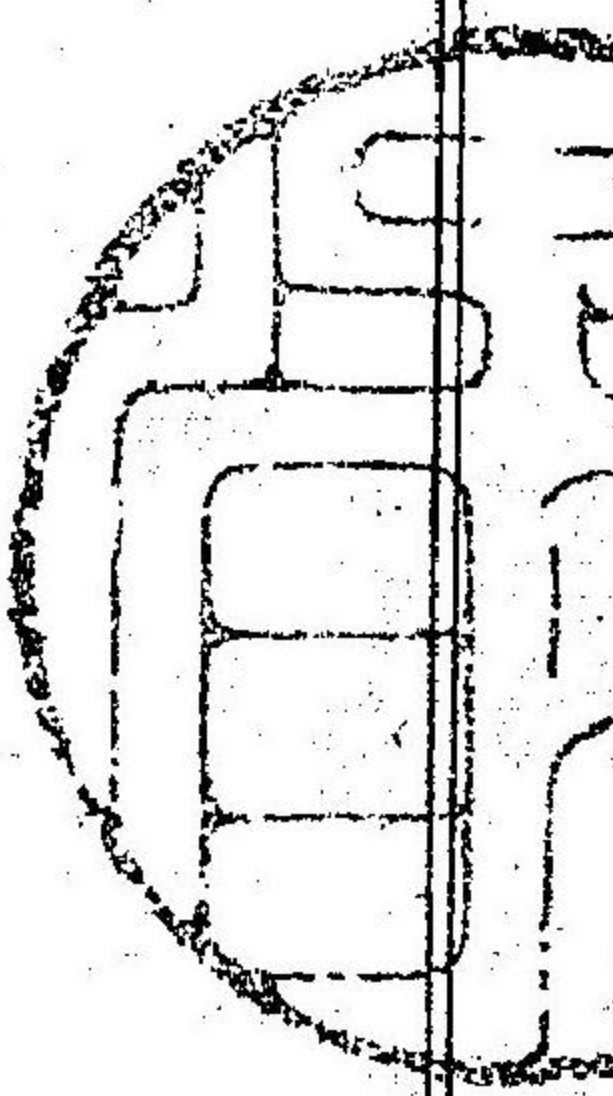


司法省藏版
版權所有

大審院民事判決錄

明治十七年五月印行



丁數	一七三	一八九	一九七	二〇八	二九二	三五八	三五九
正誤							
行數	一八	一四	一五	一八	一三	五	一五

濫觸ハ濫觸
 一村ノ下共チ脱ス
 不法ナリト下ノハ衍
 門ノ下町チ脱ス
 第一ノ下ニハ衍
 上告者ハ被上告者
 可及ノ下のチ脱ス

CZ
 2811
 10

~~93~~
~~214~~
 01

大審院民事判決錄
目次

明治十五年
十二月

第五百四十三號
 第五百四十四號
 第五百四十五號
 第五百四十六號
 第五百四十七號
 第五百四十八號
 第五百四十九號
 第五百五十號
 第五百五十一號
 第五百五十二號
 第五百五十三號
 第五百五十四號
 第五百五十五號
 第五百五十六號
 第五百五十七號
 第五百五十八號

共有山入會地所差總一件
 刑事附帶證書取戻一件
 賣買不正ノ地所取戻一件
 受取金違約一件
 質地受戻一件
 田畑宅地買戻裁判執行願一件
 質地受戻一件
 裁判執行催促一件
 貢租諸掛上納妨害一件
 同
 同
 同
 同
 同
 同
 同
 同
 同
 同
 同
 同
 同
 同

一
 一五
 一一
 一七
 二二
 三三
 四〇
 四六
 四九
 五三
 五八
 六三
 六八
 七三
 七八
 八三
 八八

第五百五十九號
第五百六十號
第五百六十一號
第五百六十二號
第五百六十三號
第五百六十四號
第五百六十五號
第五百六十六號
第五百六十七號
第五百六十八號
第五百六十九號
第五百七十號
第五百七十一號
第五百七十二號
第五百七十三號
第五百七十四號
第五百七十五號
第五百七十六號

同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

田畑違約一件
共有舖網規定違變一件
贓物處分不當一件
貸金催促一件

九三
九八
一〇三
一〇八
一一三
一二八
一三三
一三八
一四三
一四八
一五三
一五八
一六三
一六五
一七一
一七八

第五百七十七號
第五百七十八號
第五百七十九號
第五百八十號
第五百八十一號
第五百八十二號
第五百八十三號
第五百八十四號
第五百八十五號
第五百八十六號
第五百八十七號
第五百八十八號
第五百八十九號
第五百九十號
第五百九十一號
第五百九十二號
第五百九十三號
第五百九十四號

同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同
同

共有地券書換請求一件
立木賣買差押一件
小作米金契約履行一件
分地券狀名義書換捺印請求一件
戶主擅定違法一件
養子離縁一件
渡金取戻一件
地所受戻一件
中村持山稼方違約一件
田畑屋敷家屋水車賣戻違約一件
買戻田地不渡一件
家賃催促一件
入會秣塲爭論一件
渡金取戻并要償一件
預金淹滯一件
渡金取戻并要償一件
流地證取消并質地受戻一件

二八一
二八四
二九〇
二九二
一九七
二〇一
二〇八
二二三
二二六
二二九
二三一
二二五
二二八
二三四
二四六
二五九
二六〇
二七三

三

第五百九十五號	同	二七八
第五百九十六號	同	二八二
第五百九十七號	同	二八七
第五百九十八號	同	二九一
第五百九十九號	同	二九六
第六百號	貸金催促一件	三〇一
第六百一號	惡水除水盛定杭高抵爭論一件	三〇五
第六百二號	講金不渡一件	三一五
第六百三號	小作米金催促并地所引揚一件	三二二
第六百四號	抵當貸金催促一件	三二五
第六百五號	小作金直增要求一件	三二八
第六百六號	村借償却地價割金請求一件	三三一
第六百七號	賀受戻一件	三三四
第六百八號	立木伐採差留一件	三三八
第六百九號	共有山林地々券名義書換一件	三四二
第六百十號	同	三四七
第六百十一號	貸金催促一件	三五二
第六百十二號	約定履行一件	三五五

四

第六百十三號
第六百十四號

地券臺帳及順記名簿一件
山地境界譯立一件

三六三
三六五

五

第五百四十三號

○共有山入合地所差縫上告ノ判文(明治十五年七月廿五日上告
十二月十五日申渡)

廣島縣安藝國高宮郡小河原村平
民綿林正外百六十九人總代同村
平民

上告人

福岡榮二
重滿靜雄

右代言人

山中道正
廣島縣安藝國高宮郡上深川村平
民

被上告人

河成源之助
外百六十八人

共有山入合地所差縫一件廣島控訴裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトシ上告スル要領左ノ如シ
第一 原判文ニ曰ク「廣島縣令カ舊公有地ナル字長崎山字麻下山チ民有地ト定メタルハ
原被兩村入會ノ慣行成績アリシニ因レリ此慣行成績ハ即チ民有地ト定ル原由ナリ此原
由ニ因リ民有地ト定マリシ上ハ無論其所有ノ權原被兩村ニ歸シタルモノナリ」ト是恐

クハ入會ナレハ必ス共有ナリトノ皮想ヨリ此言アルニ至リシナテソ入會ニ二種アリ其地所チ共有スルト單ニ其入額チ所得スルト是レナリ入會村ニ於テ山地ノ義務チ分擔シ入額チ所得スル事同等ニシテ一切ノ事互ニ相關スルモノハ兩村ノ共有ニ屬ス然レ其山地ハ地元村ノ進退ニ歸シ其入會シテ刈リ得ル所モ限界アルカ如キハ則チ一方ニ入額ノミ所得スルノ權アルモノニテ決シテ其地盤マテ共有ナリトスルコト能ハサルナリ本訴論山ノ如キハ全ク上告村ノ地盤ニテ且ツ古來上告村ニテ之チ進退シ他ノ干涉ヲ受ケタルコトナシ即上告第八號ノ如ク文化年度論山ニ接スル福田村ト境界ノ爭論チ爲シタルトキモ上告村一村ニテ其訴訟チ爲シ其訴訟ノ和解トナリシ時上告村ト福田村ト境界ノ掘割チ爲ス等總テ上告一村ノ任スル所ナリ又維新以後ハ廢止セラレタレハ舊藩ノ時ハ論山ノ山銀チ上告一村ニテ上納シ來レリ又明治五年中上告第七號ノ達書ニ基キ山地取調チモ上告村ニテ之チ爲シ當時上告第五六號證ノ如ク證印稅チ上納ス其後明治十二年民有地編入チ願出ルトキモ上告一村ノ願ニテ戶長福井與七郎ハ被上告村ノ人ナルモ故障ナク之ニ與印シテ縣廳ニ出シ縣廳モ亦他村ノ連印チ爲スチ要セスシテ之チ民有地トナスヘキコトチ上告村ニ指令セリ加之甲第一號證ニ「尤右山所ノ内毛上建來ノケ所ニ當候而ハ上深川村ヨリ入込申間敷候事」ト云ヒ以テ入會山ノ内樹木生立スル所ヘハ被上告村民カ入込ムコト能ハサルチ制限セリ入會野山ノ内ニテ苟モ樹木ノ生立スル所ヘ入ルコト能ハスシテ單ニ雜草ノミ入合刈スルモノナレハ被上告村ハ地盤チ所有スルマテノ權チキコト明カナリ然ルニ原裁判所カ斯ク入會チ制限セシ等ノ事蹟アルチ措キ前掲ノ如ク

言渡シタルハ不當ナリトノ事

第二 原判文ニ曰ク「原告ハ唯ニ縣令下命中ノ一部ナル民有地ト定メタル命令ノミニ據リ一村專有ナリト謂フコト得ス」ト是レ上告人ノ未ダ曾テ云ハサル事チ上告人ノ言トシテ判決シタルナリ抑モ上告人ハ上告第一號チ以テ古來入會ニ制限アリシコトチ證論シ又第八號チ以テ往古ヨリ論山ハ上告村ノ進退タルチ證シ第四五六號チ掲ケ維新後上告村カ之チ進退シ且ツ其義務チ盡シタルニ被上告ハ之レチ傍觀默認シ毫モ關與セサリシコトチ證明及論駁シ且ツ第二號チ以テ該山民有地編入チ願ヒシハ上告一村ニテ之レチ爲シ該書ニハ被上告村ノ者ニテ戶長タル福井與七郎モ故障ナク與印シ縣令モ亦上告村ニ向テ之レチ民有地トスルノ指令チナセシ等古今ノ事蹟證據ニ照シテ該山ハ上告村ノ地所ニシテ被上告村ハ所得ノ入會ナルコトチ申立タルモノナリ決シテ縣令下命中ノ一部ナル民有地ト定メタル命令ノミニ據リ一村ノ專有ト言立タルコトアラス然ルニ原裁判所カ一切ノ證據論辯ニ說明チモ與ヘス前掲ノ如ク裁判セシハ不當ナリトノ事

依テ辯明及判決チ與フル左ノ如シ

辯明

第一條 上告要領第一項ノ旨趣チ審按スルニ上告村ニテ論山ノ山銀チ上納シ來レリトノ申立ハ無證ノ陳供ニ係ルチ以テ之チ採用セス又明治五年中上告村ニ於テ其第七號ノ達ニ基キ山地取調チ爲シタリト云フモ其取調ハ果シテ上告一村ニテ之チ爲スノ至當ナ

ルヲテ證明セサルコヨリ唯タニ右山地取調ノミナテ論山ハ上告一村ノ共有スヘキモノナルヲテ證明スルニ足ラサルモノトス抑モ本訴論山カ上告被上告兩村ノ共有タルヘキハ原判文第四項ノ理由ニ據ルモノナレハ其毛上建來ノケ所ニシテ會テ被上告村ノ入込サル場所ハ素ヨリ被上告ノ共有スヘキ所ニアラス故ニ右毛上建來ノ場所ハ是迄被上告者共ニ本訴論所ニ關係ナシト明言セリ既ニ本訴論所ニ關係ナキノ場所ナレハ又其場所ヲ以テ本訴論所カ上告一村ノ共有スヘキモノナリトノ證左ト爲スヲ得ス

第二條 同要領第二項ノ旨趣ヲ審按スルニ上告第一號證中「毛上建來」云々ノコトノ本訴ニ影響ヲ與ヘサルコト前項辯明ノ如シ又上告第四五六號證ノ上告者ノ申立テ證スルニ足ラサルコトハ前項上告者カ明治五年山地取調ヲ爲シタルコトノ辯明ニ同シ其第八號證ハ福田村庄屋ヨリ上告村ニ夫方差出方ヲ駈合越シタル迄ノ書面ニテ未タ是ノミナテ以テ上告者ノ申立テ證スルニ足ラサルノミナラス其成立ハ被上告第一號證ノ以前ニアリ其第二號證ニ對シテハ被上告第三號證アリ夫レ上告者カ其申立テ證シタルハ該數證ニ在ルモノナレハ原裁判所カ「原告ハ唯ニ縣令下命中ノ一部ナル民有地ト定メタル命令ノミニ據リ一村專有ナリト謂フヲ得ス」ト判決シタルハ聊カ穩當ナラスト雖モ上來辯明ノ如ク該數證一ツモ其申立テ證スルニ足ラサルヲ以テ唯タニ右裁判ヲ不當トシ之レカ破毀ヲ求ムルコトヲ得ス又原裁判所カ前數證ニ說明ヲ與ヘカリシトテ之ヲ不當トナスコトヲ得

判決

右辯明ノ如クナルヲ以テ原裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス
第五百四十四號

○刑事附帶證書取戻上告ノ判文(明治十五年八月十日上告
十五年十二月十五日申渡)

兵庫縣但馬國美合郡轟村平民細
田平四郎代人
東京府京橋區加賀町十六番地
鳩 山 和 夫
兵庫縣但馬國美合郡須野谷村平
民

被上告人 富森五郎左衛門
刑事附帶證書取戻シ一件大阪控訴裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告シテ破毀ヲ求ムル要領
左ノ如シ

第一條

判文ニ「其總理代人五左衛門ニ於テ業已ニ之ヲ承認シ居ルコトハ乙第三號證五左衛門ヨリ富森裕へ宛五月三日ノ書面ニ云々トアリ又乙第九號豐岡區裁判所ニ於テ五左衛門ノ口供ニ治郎太郎ヨリ五郎左衛門へ宛約定書即チ地所賣買ノ契約書ハ出來サル等ナリトノ御尋問ハ如何ニモ不都合ノコトヲ爲シ居リ候」トアリ且原告ニ於テ乙第八號證原告カ買戻サントスヘキ會テ被告へ讓渡シタル地所ノ内若干ヲ被告ヨリ平岡治郎太郎へ賣渡シタル取換

書ヲ五左衛門ニ於テ自書シ之ニ原告カ代印シアリ云々乙第七號證明治十年分田地作徳米代勘定書ニモ五左衛門カ自書ニ原告於テ捺印セリ凡此等ノ各證ハ本訴請求スル二通ノ證書ニ基因スルモノニシテ原告及ヒ總理代人ニ於テ該證ヲ承認ノ上ナラテハ爲シ得ヘカラスルモノナリトアレヒ上告人及ヒ五左衛門ニ於テハ該示談云々ハ素ヨリ知ラサルノミナラス假ニ示談ノ事柄アリタルモノトスルモ乙第三號證ニ依テ乙第五六號證ノ如キ示談整ヒタルモノト云フヘカラス又乙第九號第八號第七號證ハ乙第五六號證ニ基因スルモノトアルモ決シテ然ラス抑乙第九號證ヲ以テ上告人及總理代人共ニ於テ該二通ノ證書ヲ承認セシトノ道理ナク又乙第八號證ニ基因シテ成立ナタルトノ謂ハレナケレハナリ然ラハ上告人及總理代人共ノ承認セシモノト云フヲ得サルモノナリ

第二條

判文ニ「豊岡區裁判所ノ宣告ニ云々トアリテ治郎太郎カ出張シタルハ金圓借入レノ爲メニ非スシテ或ハ勸解濟口ノ爲メナルヤモ未ダ知ル可ラス此等ノ事實ヨリ推測スルモ乙第五六號證ハ原告及ヒ總理代人ニ於テ固ヨリ然諾ノ上ト認定ス然ラハ之ヲ承諾セサルモノトシ之レカ取戻ヲ訟求スルヲ得サルモノトス」トアレヒ上告人ハ決シテ服シ能ハス如何トナレハ該宣告書ハ共謀者日記簿ハ共謀人ナル淺右衛門ノ手ニ成ルモノナレハ悉ク間接ナルノミナラス甚タ信ヲ置キ得サル所ノ證書ナレハナリ而シテ終審廳モ治郎太郎カ豊岡ニ出張シタルハ借入レノタメナルカ將テ示談ノ爲メナルカ之ヲ知ルニ途ナクト辯明セラレタリ然ルニ判定ニ至テハ前陳ニ反シ誤解ノ推測アリタルハ尤モ不當ノ裁判ナリ果シテ

然ラハ乙第五六號證ハ上告人等ニ於テ承認セサルヲ明々白々タリ

第三條

判文ニ「前項ノ理由ナルヲ以テ原告訴旨不相立云々」ト判決ナ下サレタルハ前條々及ヒ本條末文ノ理由ヲ以テ不當ト思考ス抑終審廳ハ上告人ノ證書ニ對シ一モ辯明非サルノミナラス第四號證以下ニ至テハ檢印ナケレハナリ果シテ然ラハ見聞ヲナサスシテ裁判アリタルモノト云ハサルヲ得ス是レ則チ本訴ノ如キ不當ノ裁判セラレタル一ノ原因ト云フモ敢テ不可ナシ之ニ由テ之ヲ看レハ裁判定規ニ違背セシモノト思考ス

明治十五年十一月二十日附ヲ以テ上告人ヨリ呈出シタル追申書ノ要旨左ノ如シ

第一條

本件ノ主點トスル所ハ平岡治郎太郎代理權ノ有無如何ヲ決スルニ在リ何トナレハ本件取戻スヘキ證書ノ効力如何ハ治郎太郎代理權ノ有無如何ニ由テ判然スレハナリ夫レ代人ヲ命スルニ二種ノ法アリ曰ク明意曰ク包意即チ是ナリ明意トハ何ソヤ其代理權ヲ書面若クハ言語ヲ以テ明ラカニ示スモノニシテ包意トハ則チ其代理權ヲ明示セサルモ暗ニ命スル者ニシテ所謂暗諾等ニ成立ツ者トス故ニ此二者ナクンハ代理法上代理ノ効力ヲ有スルモノニアラサルナリ然ルニ本件平岡治郎太郎カ第五號乃至六號證ニ細田平四郎ノ印形ヲ捺捺セシハ治郎太郎及ヒ水田五左衛門ノ口供ノ如ク未ダ曾テ平四郎ヨリ明意若クハ包意ヲ以テ代理ノ委任ヲ受ケタルヲナク唯平四郎ノ利益ヲ圖ラントスルノ好意ヨリシテ恣ニ自己携フル所ノ平四郎ノ印形ヲ捺捺セシ者ニシテ其代理者タラサルハ平四郎ニ差入レタル

治郎太郎ノ詫狀ヲ以テ充分ニ證明スルヲ得ヘシ何トナレハ該詫狀タル平四郎カ治郎太郎ニ對シ大ニ其專横ヲ憤フリシヲ以テ其罪ヲ謝セシモノニシテ治郎太郎ノ所爲ハ全ク專斷ニシテ毫モ平四郎ノ命令ニ出シ者ナラサルコトヲ徵スルニ足レハナリ要スルニ治郎太郎カ證據物第五號乃至六號證ニ捺印シテ被上告ヘ渡セシハ治郎太郎一己ノ資格ヲ以テセシ者ニシテ平四郎ノ代理者タル資格ヲ以テセシ者ニアラサレハ平四郎ニ對シ毫モ効力ナキモノト斷言セサルヲ得ス若シ治郎太郎ノ所爲ハ平四郎於テ承諾セシモノトセハ豈ニ詫狀ヲ要スルノ理アラシヤ富森五郎左衛門ニシテ治郎太郎カ第五號乃至六號證ニ捺印セシハ平四郎ノ承諾ニ出シモノト主張セントセハ治郎太郎ハ平四郎ノ代理者タルコトヲ證明セサルヘカラサルコトヲ證明セサルハ代理權ヲ委任シタルコトナケレハナリ然レハ治郎太郎カ證書ニ捺印シテ渡セシハ其專斷ニ出シモノニシテ證書ノ無効ナルコト明了ナリ該證書ノ成立ツ原因タルヤ被上告五郎左衛門ニ於テ上告人平四郎ニ貸金アリト詐稱シ自儘ニ田地讓渡證ヲ作爲シ地券書換ヲ要求セシモノナリト雖モ第一號證即チ被上告ヨリ送りタル計算書ハ實ニ曖昧タル者ニシテ毫モ信ヲ置クニ足ラス假リニ之ヲ真正ナリトスルモ正當ニ計算スルキハ斯ノ如キ多額ニ至ラサルナリ加フルニ上告人カ豊岡警察署ニ告訴シタルキ被上告人呈シタル計算書ハ即チ第二號證ト大ニ差違アリ何トナレハ第二號證ニ據テ見ルキハ午年ノ閏十月一日元金ニシテ第一號證ニ據ルキハ安政二卯年八月ヲ以テ元金ト爲セリ如此第一號證ト第二號證トハ年度及ヒ金額ノ差違アリテ實ニ曖昧ヲ極メ孰レカ真ナルヤヲ信スル能ハサルナリ

第二條

平岡治郎太郎ハ平四郎ノ代理者タルヘキ資格ナク隨テ其證書ノ無効タルコト明瞭ナルニ大阪控訴裁判所ハ實ニ不當ノ裁判ヲ與ヘラレタリ今其判旨ヲ要スルニ專ラ乙第三號證及ヒ乙第八號乃至九號證ニ拘泥シ本件取戻スヘキ證書即チ第五號乃至六號證ニ治郎太郎カ平四郎ノ印ヲ捺捺セシ所爲ハ細田平四郎ニ於テ然諾セシモノナリト云フニ在レハ第三號證ハ水田五左衛門ヨリ富森裕ヘ宛テタル書面ニシテ其文中示談一條ニ相罹リ被下候様云々トアリト雖モ之ヲ以テ治郎太郎ノ所爲ハ平四郎及ヒ五左衛門於テ認知セシモノナリト云フヲ得ス何トナレハ總理代人水田五左衛門ニ於テハ果シテ如何ナル示談ヲ爲スノ意ナリシヤ知ル可ラス況ンヤ該書面ハ淺右衛門出張ノコトヲ報知セシニ止マリ治郎太郎ニ於テ平四郎ノ印形ヲ所持セシ故ニ捺印スヘシト云意思ノ含蓄スルヲ察スル能ハサルニ於テオヤ治郎太郎カ行爲ニ於テ平四郎及ヒ五左衛門カ認諾セサルヤ論ヲ竣タヌ又第八號證ハ乙第一號證ノ地所ノ内被上告富森五郎左衛門ヨリ平岡治郎太郎カ地所若干歩ヲ買戻サントスル取換證ニ平四郎カ代印シタル者ナリ而シテ該證ノナルヤ水田五左衛門ハ突然腕力ニ訴ヘ強ナルカ故ニ未ダ被上告五郎左衛門ニ渡スチ肯ンセサル中五郎左衛門ハ突然腕力ニ訴ヘ強奪シタル者ナリ假リニ正當ニ被上告ノ手ニ渡シタルモノトスルモ之ヲ以テ本件ニ推測ヲ及ホスヘカラス何トナレハ第八號證ト本件取戻スヘキ證書トハ全ク其性質ヲ異ニシ其關スル所同一ナラサレハナリ若シ判文ノ如クセハ假令ハ往日代人ヲ命シ負債主ヨリ金圓ヲ請取ラシメシ事實アラハ復他日本人ノ命令ヲ受ケスシテ他ノ負債主ヨリ貸金ヲ請取リ私

用スルモ本人ハ負債主ニ向テ請求スルノ權利ナカルヘシ何トナレハ該判文ノ趣意ヲ解釋スレハ往日一タヒ貸金請取方ヲ命セシテ以後日代人ニ於テ自儘ニ他ノ負債主ヨリ請取モ本人於テハ其所爲ヲ承諾セシモノト推定ナサ、ルヲ得サレハナリ豈ニ如此ノ法理アラシヤ又乙第九號證豊岡區裁判所ニ於テ爲シタル水田五左衛門ノ口供中治郎太郎ヨリ宛不都合ノコトヲ爲シ居リ候トアルハ判官ノ尋問ニヨリ五左衛門ニ於テ本件證書ノ成立ハ本人細田平四郎ハ勿論自分ニ於テ毫モ承知セサルトコロニシテ治郎太郎ノ所爲ハ甚不都合ナリト申立タルナリ然ルニ原裁判所ハ之ヲ誤解シ上告者ニ對シ不利益ナル口供ト誤認セラレタリ

因テ辯明并判決ヲ與フル左ノ如シ

辯明

本訴ハ被上告第五六號證ノ契約ハ上告者及ヒ其總理代人タル水田五左衛門ニ於テ之ヲ承認シタルモノナルヤ否ヲ審究スル緊要ナリトス依テ之ヲ審按シ被上告第三號證即チ五左衛門カ被上告者ノ長男富森裕ヘ宛タル五月三日附ノ書面ヲ閱スルニ「澁本老人御出張ニ相成居候趣云々今日ヨリ示談一條ニ相罹リ被下候様御依頼申置候間左様御承知可被下候」トアレハ五左衛門カ澁本淺右衛門ニ示談一條ノコトヲ依頼シタルヤ明カナリトス然ハ則被上告者カ右依頼ヲ受タル澁本淺右衛門等ト契約シタル其第五六號證チ五左衛門ニ於テ之ヲ知ラスト云フコトヲ得ス又上告者ニ於テ該契約ヲ無効ナリトスルコトヲ得ス況ンヤ原裁判説明ノ如ク被上告第七八九號ノ傍證アルニ於テオヤ依テ原裁判所カ被上告第五六號

證ハ上告者及ヒ其總理代人ニ於テ固ヨリ然諾ノ上ト認定シ上告者ノ訴旨ヲ斥ケタルハ不法ニ非ス但シ上告者ハ被上告第八號證ハ本件取戻スヘキ證書トハ全ク其性質ヲ異ニシ其關スル所同一ナラサレハナリ云々ト申立レモ元來上告者ハ被上告第一號證ヲ以テ被上告者カ自儘ニ作リタル不正不當ノモノナリトスルモノナレハ該第八號證ハ本訴ニ對シ尤モ緊要ノ關係アルモノトス又被上告第九號證中「不都合ノ事ヲナシ居候」トアルハ五郎左衛門ニ於テ被上告第八號證チ自書シタルコト不都合ナルヲ指シタルモノナルコトハ該第九號證ノ全文チ一讀シ傍ハラ明治十五年四月二十一日原裁判所ニ於テ上告者カ口供ニ參照シテ明了ナルコヨリ該文詞ニ對シ決シテ上告者カ申立ル如キ「治郎太郎ノ所爲ハ甚タ不都合ナリト申立タルナリ」トノ見解ヲ下スヲ得ス此他種々申立ル所アリト雖モ以上辯明ニテ之ヲ理會シ又ハ本訴ニ影響ナキノ事柄ナルヲ以テ之カ辯明ヲ省ク

判決

前辯明ノ如ナルニ依リ大阪控訴裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノナリ
第五百四十五號

○賣買不正ノ地所取戻上告ノ判文(明治十五年四月十五日上告
十五年十二月十六日申渡)

千葉縣上總國山邊郡松ノ鄉村六

十一番地平民

遠山省三

同村三十四番地平民

上告人

被上告人

土屋四郎左衛門

同村五十七番地平民

遠山勘兵衛

上告ノ要領

第一條

原裁判所ノ判文ニ〔先ツ原告(告)上〕ノ緊要トスル所ノ番外證(上告番外)即チ當時ノ戸籍寫
ヲ吟味スルニ該證ハ戸長役場ニ現在引繼キ之ナキモノナルノミナラストアレハ上告番
外第一號證ヲ假令舊村吏カ戸長役場ヘ引繼カサルトテ不正ノモノニ非ラズ何トナレハ當
時ノ人別簿ハ明治五年戸籍法ヲ設ケラレ戸籍簿調製シタルヲ以テ其以前ニ係ル人別帳ハ
不用ニ屬スレハナリ上告人ハ該人別帳カ舊村吏ノ手裏ニ存在シアルヲ以テ之レヲ謄寫シ
來リ上告第二號及ヒ第六號證ニ添ヘ當時與市ハ次郎左衛門ト稱セシヲナキヲ證明シタル
モノナリ然ルチ原裁判所ハ上告番外第一號證ノミヲ摘採シ上告第二號及ヒ第六七八號ヲ
擯斥シ上文ノ如ク裁判ヲ與ラレタルハ不當ナリト思考ス

第二條

全判文ニ〔其舊名主村井彦兵衛ナルモノハ云々與書調印モナシ居リナカラ云々乙(被上)告〕
第一號證ニハ其他二名ノ與書調印ノアルアレハ固ヨリ真正ノモノナリトストアレハ舊
村吏村井彦兵衛其他二名カ被上告第一號證ニ與印セシハ同人等カ始審廳ヘ呈セシ始末書
及ヒ上告番外第二號證(番外第二號ハ原裁判所ヘ呈)ノ如キ事實ニテ不正トハ不心付與印
セサレトモ御參照ニ供ス

セシモノナリ左スレハ假令舊村吏カ與印シアルモ其賣買ノ不正タルヲ發露スル以上ハ該
與印ノ無効タルハ論ヲ俟タス然ルチ原裁判所ハ上告第二號及ヒ第五號證ヲ度外ニ措キ上
文ノ如ク裁判ヲ與ヘラレタルハ不當ナリト思考ス

第三條

全判文ニ〔然レハ當時原告(告)上〕ノ弟ハ次郎左衛門ト稱シ且論地ハ自由ニ進退シ得ヘキ權
利アリタルモノト認定セサルヲ得ストアレトモ上告人ノ弟治郎左衛門ハ當時與市ト稱
シ治郎左衛門ト稱セサルヲハ上告第二號第六七號證及ヒ番外第一號證ヲ以テ著明ナリ其
與市事治郎左衛門ト稱セシ年度ハ上告第八號證ノ如クナリ然リ而シテ與市事治郎左衛門ハ
當時上告人ノ所有地ヲ自由ニ進退スヘキ謂レナシ何トナレハ上告者不在中家事向ハ上告
者ノ妻「マサ」カ擔任シアリテ次郎左衛門カ自由ニ賣買ヲ成スヘキモノニ非レハナリ良シ
ヤ進退スルモノトスルモ自由ニ賣買ヲ爲スヘキ特權ハ有セサルモノナリ業已ニ與市事次
郎左衛門カ當時相續セサルト論地ヲ自由ニ進退セサル事由ハ上告第六號證ニ明晰タリ然
ルニ原裁判所ハ此等ノ審理ヲ盡サス上文ノ如ク裁判ヲ與ヘラレタルハ不當ナリト思考ス

第四條

全判文ニ〔被告(被上)告〕勘兵衛カ次郎左衛門ノ代人トナリシモ亦不當ナラサルヲ知ルヘシ
云々被告勘兵衛カ當衛ニ向テノ陳述ニハ乙(被上)告第一號證ハ決テ不正ニアラス真正ニ成
立タルモノナリト明言セルニ於テ「マサ」トアレハ被上告勘兵衛カ次郎左衛門ノ代人トナ
リタレハ當時次郎左衛門ノ名稱アラサレハ(上告第二號第六七號)其代人トナルヘキ謂
及ヒ番外一號ノ如ク

レナシ果シテ勘兵衛カ次郎左衛門代ト稱シタルハ被上告勘兵衛カ詐稱シタルモノナリ
 既ニ勘兵衛カ始審廳ノ口供ニ同被告タル土屋四郎左衛門ノ誘導ニ從ヒ同人へ之レヲ盜賣
 シ云々賣主次郎左衛門代ト詐書シトアルニ非ラスヤ被上告勘兵衛ハ原裁判所ニ於テハ
 前言ニ背反シ被上告第一號證(即チ乙)ハ不正ニアラス真正ナリト供述シタルトモ既ニ始
 審答書及口供ニ不正ニ賣買ヲナシタル旨吐露シアレハ之レカ取消モ成サスシテ原裁判所
 へ向テ真正ナリト云モ何ソ信用スルヲ得ンヤ良シヤ被上告勘兵衛カ始審廳ノ答書及口
 供ハ誤謬ニ出タルトスルモ上告第二號證明治十三年七月七日付對談書及ヒ第五號證及同
 年八月三日付始末書ニ自白アリ況ンヤ當時土地ノ賣買ハ禁制タルオヤ然ルナ原裁判所ハ
 被上告勘兵衛カ始審廳へ自白シアル事實ヲ不問ニ措キ不實ノ供述ヲ採用シ剩へ上告第三
 號及ヒ第五號證ヲ排斥シ上文ノ如ク裁判ヲ與ラレタルハ不當ナリト思考ス

第五條

前條々ノ理由ナルヲ以テ原裁判所ノ裁判ヲ破毀セラレンコトヲ請願候也

辯明

上告ノ旨趣ヲ約言スレハ原裁判所ニ於テ上告番外第一號證及上告第二號六號七號證ヲ擯
 斥シ被上告第一號證ヲ真正ノモノト認メ當時上告人ノ弟與市ハ治郎左衛門ト稱シ且論地
 ナ自由ニ進退シ得ヘキ權利アリシモノト判決セラレタルハ不當ナリト謂フニアリ抑上告
 者ハ其番外第一號及ヒ上告第二號六號七號證ヲ以テ當時與市ハ治郎左衛門ト稱セサル
 ナ證スレトモ其第二號證ハ遠山勘兵衛ヨリ與市へ與へタル書面第六號證ハ與市ト吉平

(上告人)
ノ舊稱

ノ爲取換書第七號證ハ伊兵衛ト吉平ノ授受シタルモノニシテ該數證ハ被上告者
 カ關涉シタルモノニ非レハ本訴ニ對シ明證ト爲スヲ得ス且番外第一號證ハ舊村吏村井彦
 兵衛方ニ藏置シアル帳簿ノ寫ナリト云ヒ彦兵衛ニ於テモ其寫ナルニ相違ナキ旨證明スレ
 トモ果シテ當時與市ハ治郎左衛門ト稱セサレハ被上告第一號證ニ治郎左衛門代勘兵衛ト
 記載シタルハ有名無實ナルニ非スヤ左スレハ斯ル證書ニ村吏カ與書調印スヘキ謂レナシ
 然ルニ該證書ニハ彦兵衛外二名ノ舊村吏カ與書調印シアルヲミレハ當時與市ハ治郎左衛
 門ト稱シタルモノト認ムルニ足レリ故ニ上告番外第一號證ハ當時ノ人別帳ノ寫ナリト彦
 兵衛カ證明スレトモ事實ニ適合セシモノトナシカタク且該證ハ戶長役場ニ引繼タルモノ
 ニ非レハ旁以テ信用スルヲ得ス則原裁判所ニ於テ上告番外第一號證上告第二號第六號第
 七號證ヲ採用セサルモ不當トナスヲ得ス

上告者ハ被上告第一號證ニ舊村吏村井彦兵衛外二名カ與書調印シタルハ不正ト心付カス
 爲タル旨右村吏等カ始審廳へ申立タル以上ハ該與書調印ノ効力ハ消滅シタルモノナリト
 云々論述スレトモ舊村吏等カ右ノ申立ヲナシタルハ其不正ナルコトハ存セスシテ與書調印
 シタルトノ謂ヒニ止リ該賣買ハ不正ナリト斷言シタルニ非ルナリ加之始審廳ニ於テ被上
 告第一號證ニ與書調印シタル顛末ヲ舊村吏等へ訊問シタル處與市事治郎左衛門カ四郎左
 衛門(被上告人)ト同道シテ與印ヲ願出タルトアレハ事實勘兵衛カ盜賣シタルモノニ非ルヤ明
 ナリ而シテ勘兵衛カ始審廳及ヒ上告第五號證ノ如ク千葉縣警察署ニ於テ論地ハ自己カ盜
 賣シタルモノ、如ク申立且上告第三號證ヲ上告人へ差納レタルモ右申立及ヒ第三號證ニ

記載スル所ノ旨趣ハ總テ事實ニ適合セサレハ信ヲ措キ足ラス加之勘兵衛ハ控訴ノ答辯ニ
 前言ヲ取消シ論地ハ上告人カ佃島ニ於テ苦役不在中同人ノ弟治郎左衛門ノ代人トナリ賣
 却シ其代金ハ上告人カ家族ノ活計ニ充タル旨ヲ申立タルニ依レハ愈以テ論地ノ賣買ハ不
 正ニ非シテ被上告第一號證ハ真正ニ成立タルモノト認ムルニ足レリ故ニ原裁判所ニ於テ
 上告第三號及ヒ五號證ヲ擯斥シ(乙)被上告第一號證ニハ其他二名ノ與書調印ノアルアレ
 ハ固ヨリ真正ノモノナリトス)ト判決シタルハ不當ニ非ルナリ
 又上告者ハ上告第六號證ヲ以テ弟與市ハ當時治郎左衛門ト稱セス且論地ヲ自由ニ進退ス
 ルノ權ナシトノ旨趣ヲ云々申立レトモ被上告第一號證ニ治郎左衛門代勘兵衛トアリ果シ
 テ當時與市ハ治郎左衛門ト稱セサレハ舊村吏等カ與書調印スヘキ謂ナク且前項ニ辯明ス
 ルカ如ク右村吏等カ始審廳ニ於テナシタル供述ノアルアレハ當時與市ハ治郎左衛門ト稱
 シタルヤ明了ナリ上告者ハ與市事治郎左衛門論地ヲ自由ニ進退スルノ權ナシト申立レト
 モ上告人ニ於テ論地ハ既ニ他人ノ所有ニ歸シタルヲ覺知セス依然實地ナリト思惟シ居
 レハ明治五年地券發行ノ際該地ノ地券名受ノ手續ヲ爲サス放却シ置理由アラサルナリ然
 ルニ上告者ハ其手續ヲ爲サス爾後數年間放却シ置タル顛末ヲ以テ事實ヲ推測スレハ上告
 者ハ論地ハ我不在中自家ノ爲メ弟與市事治郎左衛門カ賣却シタルヲ業ニ已ニ得心シタ
 ルモノト認メサルヲ得ス則原裁判所ニ於テ(原告)上告第一號證ノ弟ハ治郎左衛門ト稱シ論地ハ自
 由ニ進退シ得ヘキ權利アリタルモノト認定セサルヲ得ス)ト言渡シタルハ事實ニ適合シ
 タル裁判ニシテ不當ニ非ルナリ

上告要領第四條ニ被上告第一號證ハ勘兵衛ノ偽造ナル旨趣ヲ反覆陳辯スレトモ該證ノ不
 真正ニアラサル所以ハ上文ニ詳悉シタルハ復タ辯明ヲ與ヘス且上告人ハ當時ハ土地ノ賣
 買禁制ナリト申立レトモ明治五年第五十號公布ヲ以テ地所永代賣買ノ儀ハ解禁セラレタ
 ル上ハ右賣買ハ無効ニ歸スヘキモノニ非ルナリ

判決

右辯明ノ筋合ナルヲ以テ明治十五年二月十五日東京控訴裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ハ破
 毀スヘキ理由ナシトス

第五百四十六號

○受取金違約上告ノ判文(明治十五年四月一日上告
 十五年十二月十八日申渡)

東京府京橋區南傳馬町一丁目二
 番地平民

上告人

金子新三郎

同府神田區今川小路一丁目一番

地寄留群馬縣士族

廣瀬帆三

右代言人

同府芝區愛宕下町二丁目十番地

平民

佐藤治兵衛

被上告人

上告ノ要領左ノ通り

抑モ明治七年四月中江戸橋石橋新規架渡築造請負ノ儀被上告人佐藤治兵衛ニ於テ金一萬圓餘ニテ落札シ其内石類一式ヲ住吉清兵衛ナルモノ自身元引受ケテ金七千七百七十圓ニテ譲リ受ケ則チ甲第二號證(原被告連印ノ仕様書ナリ)東京府廳へ差出シ而シテ納石ヲ爲シ其代價二割チ府廳へ殘置キ自分并住吉清兵衛佐藤治兵衛三名連印ヲ以テ追々金三千五百圓ヲ下渡相成其後同年十一月四日該納石并ニ代價下ケ金受取方等悉皆住吉清兵衛へ依頼シ自分ニ於テハ山方へ石切出シ方ニ罷越自分不在中ニ同年十一月四日ヨリ同月十七日迄ニ(笠石敷)該石類着荷セシニ付自分代理住吉清兵衛ヨリ府廳ノ係官(齋藤某田中某)兩名へ該石代價下ケ金ノ儀ヲ相願候處該係官ニ於テハ該石水揚檢査ノ上代價下ケ渡スヘキ旨被仰渡依テ水揚致御檢印濟相成然ル處該係官ノ曰ク自分へ過渡金モ之レアルコヨリ下ケ金不相成旨清兵衛へ被申聞依テ同人ヨリ尙下ケ金方々相迫候處前書係官(齋藤某)ヨリ請負人佐藤治兵衛ト示談被致候様殊ニ該橋落成ノ上ナラテハ代價下渡サ、ル旨被申聞不得已儀ニ付清兵衛カ請負人佐藤治兵衛ト專斷ニテ前書甲第二號證ニ基キ甲第一號證ヲ調製シ則チ爲取換置キタリ故ニ東京始審裁判所ニ於テ公明至當ノ裁斷ヲ降サレタルヲ終審廳ニ於テ不當ノ判決ヲ爲シタリ其判文中第一條ノ末文ニ曰ク「(受負高七千七百七十圓ヲ掲載シアルモ仕様ノ更改ニ關セス原告第二號證ニ因テ精算スヘシトノ證據トナズニ足ラサレハ原被間ノ精算ハ原告第三號證ニ標準スヘキモノトス)トアルハ之レ則チ被上告者カ全ク一己ノ專斷ニ出タルモノコシテ上告者ノ毫モ關與セシモノニアラサル無効ノ第三號證ニ對

シ精算ヲ該三號證ニ標準スヘキモノトアルハ之レ則チ不當ノ裁判ナリ故ニ始審廳ノ判文ノ末項ニ曰(乙第五號證)(原裁判所ニテ)チ以テ計算ヲ爲スヘキモノニ非ラストス因テ甲第二號證ニ基キ原告請求ノ金五百一十一圓九十五錢一厘八毛并訴訟入費共被告ヨリ償却スヘシトアルハ則チ公明至當ノ裁斷ト思慮セリ亦タ終審廳ノ判文第二條ノ末文ニハ「(不足金アル時ハ相互ニ負擔スヘキ事ヲ契約シアレハ原告ノ不足ヲ被告ヨリ補償セサルヲ得サルモノトス)」云々アルモ決シテ不足ノ生スルニ非サルコト明ラカナリ如何トナレハ石橋ノ繪圖面ヲ製シ夫ヨリ仕様書ヲ調製シ之レヲ府廳ノ係官ニ差出シ該築造ニ着手セリ然ルニ被上告人ハ終審廳へ納石代價ヨリ不足金ヲ生シタル杯ト主張スルモ決シテ左ニ非ラス該石橋ニ使用スヘキ石類ノ内減少アルハ既ニ府廳ニ於テ元積リ代價ヨリ引去タリ是レハ全廳記録課ニ於テ明瞭タリ然レハ被上告人ヨリ卷石ノ切敷ヲ増加セシハ全ク被上告人カ一己ノ專斷ニ出タルモノコシテ自カラ不足ヲ醸シタレハ上告人ハ是レニ毫モ關係ナキモノナリ然リ而シテ該橋落成シ以テ府廳ヨリ代價下ケ渡シノ儀ニ付自分代理住吉清兵衛并被上告人佐藤治兵衛兩名御召喚ニ相成全廳係官ニ於テ佐藤治兵衛ハ請負人ノ名義ナレハ全人へ代價悉皆下ケ渡シ候ニ付尙全人ヨリ石代價可受取旨申聞ケタリ然ルニ佐藤治兵衛ニ於テハ豈量ンヤ不當チ主張シ代價不相渡ニヨリ這回ノ詞訟ニ至リタリ然ルニ原裁判所ハ自分ハ毫モ承認ナク被上告者カ一己自儘ニ調製シタル第三號證ニ因リ計算スルノ外ナケレハナリトノ裁判ハ頗ル不盡理不當ノ裁判ト云サルヲ得ス

右ノ理由ニ付原裁判所ノ裁判ヲ破毀セラレシトテ請願スルトノ事

本件ノ要點ハ上告第二號證ト被上告第三號證トノ効力如何ニ在リ而シテ原裁判所ハ依ルヘカラサル被上告第三號證ヲ採テ以テ有効トシ上告第二號證ヲ無効ト爲シ之ヲ擯斥セラレタリ其判旨ヲ約言スレハ第一被上告第三號證ハ府廳ノ記録ト參照スルニ毫モ差異ナク第二根石々垣等摸樣替トナリテ減シタル廉アルヲ看レハ被上告第三號證ハ方正有効ノモノナリト云フニアリ依之上告人ハ上告第二號證ノ成立及ヒ兩造間ニアリテ有効ナル理由ヲ陳述スヘシ夫レ江戸橋石造新規架設ノ舉アルニ方リテヤ東京府廳ハ先ツ橋ノ全圖ヲ製シ仕樣帳ヲ設ケテ之ヲ下附スルモノナリ其繪圖面ニハ全形ヲ現ラハシ間數及ヒ人馬ノ通路目鏡ノ現形等ヲ明示セリ而シテ仕樣帳ニハ渡リ長サ二十二間ニシテ幅八間目鏡ノ内法各十間トスル定メノ如キ又ハ高サ根石上端ヨリ卷石下端迄三間三尺前後橋臺石垣築立方石類等ニ至ルマテ細大舉ケテ洩スヲナシ緻密ヲ極メタルモノニシテ被上告人ハ右仕樣帳ニ依テ築造方請負タリシナリ然リ而シテ上告人ハ右繪圖面仕樣帳ニ基キ石類一式納メ方請負即チ上告第二號ノ如ク石類反ヒ代金等一筆毎ニ明記シ該橋築造人タル被上告人之レヲ見認メ而シテ府廳へ進達シタリ府廳ニ於テモ彙ニ下附スル處ノ仕樣帳ニ適合スルヲ以テ之レヲ認可シタレハ即チ上告人ハ石類納メ方ノ請負人タリシコト明白ナリ夫レ然リ上告第二號證ハ府廳ノ仕樣帳ニ由リ其石類ヲ詳細ニ明示シ被上告人之ヲ看認而カモ府廳ノ允可ヲ得タルモノナレハ確乎動スヘカラサルモノナルハ論ヲ竣タサルナリ之ニ反シ被上告第三號證ハ落成后ニ至リ被上告人一己恣ニ調製シタルモノナレハ上告人カ已ニ納メタル

石代價精算スルニ方リ其標準トスヘキモノニアラストス蓋シ被上告人カ該證ヲ調製シ之ヲ府廳へ進達シタルハ后日上告人カ精算ヲ要ムルニ方リ之カ抗辯爲スノ材料ニ供セントノ構成ナラン今茲ニ其疑訝タル事項ノ一ヲ云ハシ第一石數ヲ増加シ價格ヲ減少シ而シテ卷石ノ項ニ至レハ上告第二號證ノ間數ト對照スルニ八十四間餘ノ間數ヲ増加シタリ然ルニ築造方ニ於テハ當初ノ仕樣ノ如ニシテ其仕樣ニ毫モ異ナルコトナシ左スレハ被上告第三號證ノ仕譯書ニ故ラニ間數及ヒ石數ヲ増加シ其代價ヲ減シタルハ全ク被上告人カ請詐ノ情ニ出タルモノナレハ上文陳述スル如ク事實ニ適セサルヲ以テ明カナリ故ニ被上告第三號證ハ假令府廳ノ記録課ニアル書面ト同一ナルモ其原因ヲ論究セハ決シテ正當ノモノニアラス又假リニ原裁判所判文ノ如ク上告人ハ引受ケタル納石ヲ果サス失踪後被上告人カ功ヲ竣ヘタリトスルモ被上告第三號證ハ上告人カ失踪シタル即チ明治七年十二月以テ及ホシ或ハ其効用ヲ爲ヘキモノ之ヲ以テ上告第三號證ノ石類ヲ精算スルニ遡リ之カ標準ト爲ヘキモノニアラス何トナレハ上告第三號證ノ石類ハ上告第二號證ニ基キ納石シ府廳官吏ノ檢印スル所ニシテ被上告人ニ於テモ已ニ之ヲ築造方ニ使用スルヲ以テナリ以上論述シタル理由ナルヲ以テ上告人ニ於テ已ニ納石シタル第三號證ノ石代價ヲ精算スルニハ上告第二號證ニ依ルヘキモノナリ決シテ被上告第三號證ニ依テ其代價ヲ定ムルモノニアラスト信ス

又摸樣云々ト云フカ如キハ橋築造ニ付仕樣ヲ變換シ摸樣換トナリシモノニアラス其故如何トナレハ當初着手スルニ方リ根石一側通り減少シタルマテコト其減少ノ代價ハ百四十

七圓四十六錢六厘トシテ已ニ之ヲ元高七千七百七十圓ノ内ヨリ引去リ殘額七千二十二圓五十三錢四厘ヲ以テ納石スルノ約定ナレハナリ何ソ事業中摸樣替トナリ其仕樣等ヲ變更シタルモノナランヤ故ニ右根石減少ト云フ一廉ヲ以テ全體摸樣替ナリトシ上告第二號證ノ全部ヲ廢棄ニ歸セシムル理由萬々コレナシトス

右ノ理由ナルニヨリ上告人ニ於テ業已ニ納石シタル代金ハ上告第二號ニ依據シ即チ五百十一圓九十五錢一厘八毛ヲ求ムルハ固ヨリ當然ノ事ト確信ス

上告第一號證ニ萬一不足ニ至リ候得ハ御同様ノ損毛ノ事ニ可致候トアルハ上告人カ中途ニシテ其納石ヲ果サ、ルヲ以テ其殘石ヲ被上告ニ於テ納石シタリ依テ雙方精算スルニ方リ上告第二號證ノ石代價ト被上告人カ納メタル石代價ト對照シテ若シ被上告人ノ納石代價高直ニシテ若干ノ損害ヲ來タシタル場合ニ於テハ右明文ニ基キ其損害ヲ雙方ニ於テ分擔スヘキトノ約定ニ有之トノ事

辯明

上告者ニ於被上告第三號證ハ被上告者カ一己ノ專斷ニ出テ上告者ハ毫モ關與セサル無効ノ證ナルニ原裁判所ハ此無効ノ證ヲ採テ以テ精算スヘキ標準ト爲シタルハ不法ナリト云フト雖上告者ハ自ラ負擔スル其第二號證ノ石類納方ヲ果サス中途ニシテ失蹤シタルヲ以テ被上告者カ不得止其納石ヲ繼續シ遂ニ其第三號證ノ成立ツニ至リタルモノナレハ之レヲ專斷ナリトシ無効ニ歸セシムル道理ナキモノトス又此第三號證ヲ故造シタリト云モ畢竟口頭ノ陳述ニ止リ證徴ノ見ヘキナキノミナラス此

第三號證ハ東京府廳ノ記録ニ參照スルモ石類價額毫モ差違ナキ限リハ真正ノ證ト可謂シテ本按精算ノ標準トスヘキハ結局此第三號證ナリトス然レハ原裁判所カ(原告(被上)第三號證ニ因テ計算スルノ外チケレハナリ)ト判定シタルハ允當ナリトス但上告者於テ種々論述アリト雖モ緊要ノ點ニ對シ辯明ヲ與ヘタレハ一々辯明ヲ與ヘス

判決

前條辯明ノ筋合ナルニ付明治十五年三月九日東京控訴裁判所ニ於テ本訴ニ對シ申渡シタル終決裁判ハ破毀スヘキ理由無キモノトス

第五百四十七號

○質地受戻上告ノ判文(明治十五年二月十四日上告全十五年十二月十九日申渡)

静岡縣遠江國山名郡大原村三十

七番地平民

池田平七郎

東京府京橋區南鍋町一丁目七番

地寄留和歌山縣平民

植木綱二郎

静岡縣遠江國盤田郡見付宿東坂

町七十八番地平民

右代言人

上告人

被上告人

山内清吉

右代言人

方波見祐助

質地受戻一件上告人ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法ナリトシ破毀ヲ求ムル上告ノ要領左ノ如シ

第一條

原判文第二條ニ於テ〔甲第三號甲第九號ハ一村民ノ協議ニテ村外ノ原告人(被上)カ承諾シタル憑據之レナシ且年季明後モ數年間依然原告(被上)ニテ所有シ來タリタルモ被告カ之ヲ故障セシ經歷ナキ等ノ實況ニ依ルモ原告ハ當時本訴論地ノ地主ト認メラルヘキ所アリテ地券ヲ授與セラレタル者ト推定シ得可シ〕ト裁判セラレタル地券ヲ授與スルハ一ツニ行政官ニ在テ其行政官カ兩造間ノ關係如何ヲ判定シテ授與シタルニアラサルニ付行政官カ授與セシトテ之ヲ以テ兩造ノ關係ヲ知ルヘキノ道理ナシトス又季明後數年間依然被上告ニ於テ所有シ來リタリトハ如何ナル事柄ヲ指稱セラレタル歟上告人カ故障セルモノトセハ如何ナル事柄ヲ指スヤ舊法ニ據ルモ流地文言ナキモノハ期明後十ヶ年間何時ヲ問ハス受戻スノ權利アレハ被上告人カ之ヲ他ニ轉賣等セサル限リハ故障スルニ及ハサルモノトス況ヤ季明後被上告人カ特別ニ所有シ來リタリトノ實跡之レナキニ於テテチャ質地期限内ニ係テ流地セサルニ於ケルヲ然ルニ原裁判所カ流地ナリトモ言ハス又賣買地ナリトモ言ハス唯タ地券ヲ所有スル迄ノモノヲ其地ノ所有者ト認メ其事實ノ如何ヲ推究セ

スシテ上文ノ如ク裁判セラレタルハ不當ノ裁判ト思考ス

第二條

本訴ノ質地タル大原村内ノ地ニシテ大原村内ハ一般協議上質取主ニ地券ヲ請ケシメタルモ眞ニ所有權ヲ移シタルニアラサルニ付爾後質置主カ受戻シタルコト多々之レアリトス現ニ本訴地所ノ如キ質地期限内ト雖モ同様質取主即被上告人ニ地券ヲ受ケシメタリキ然レハ所有權ヲ移シタルニ非サルハ彼レニ流地證ノナキヲ以テモ明ナリトス實ニ農家ニ在テハ地所ハ大切ナレハ輒シ他ニ所有權ヲ移スモノニ非ス移スハ必ス證書ヲ授與スルヲ古ヨリノ慣例トス況ンヤ上告第三號五號六號七號八號九號證アルニ於テチャ然ルニ被上告ニ於テハ所有權ヲ移セシノ證一モ之レナク僅ニ地所々在村ノ協議ニ依テ得タル一片ノ地券アルノミナレハ豈質地期限内所有權ヲ移轉シタルノ證ト爲ス可ケンヤ抑土地所有者アリテ然後地券ヲ受クルモノニテ地券アリテ始メテ所有者アルニ非ス左スレハ所有ハ本ニシテ地券ハ末ナリ其末流ノ地券ヲ將テ淵原ノ所有ヲ傷害スルノ理ハ萬々アラサルナリ然ルニ原裁判所カ地所々在村ノ協議ニ係ル地券ニ依ラレ雙方ノ契約ニ係ル質地ヲ受戻スヲ得スト裁判セラレタルハ不當ノ裁判ト思考ス

第三條

原判文第三條ニ〔年季明キ何ヶ年相立トモ受戻シ得ヘキ質地ナリトノ證據ナク(云々)ト裁判セラレタルニ壬申二月十五日以前ノ質地契約ニハ二種ノ別アリ季明ケノ節不受戻ニ於テハ流地ニ可致ト季明後何ヶ年相立ツモ受戻スヲ得ルト是レナリ然シテ當時ノ法律ニ據

レハ流地文言アル分ハ季明ケ後ニケ月流地文言ナキ分ハ季明後十ケ年ヲ以テ受戻出訴ノ
期限トス今ヤ本訴ノ質地ハ明治二年正月ヨリ明治八年十二月迄七ケ年ノ期限ニシテ期限
後ハ何ケ年相立モ受戻シ得ルノ約ナルハ上告第二號證村役場公正帳簿ニ依ルモ明ナリ然
ルチ原裁判所ハ此二號證ヲ不真正ノ如ク看做シ之ヲ排斥シ終ニ何時ニテモ受戻スノ證ナ
シトシテ上告人ノ請求相立ストセラレシハ甚不當ノ裁判ト思考ス

第四條

原判文第三條ノ主旨ハ季明ケ後何ケ年相立ツモ受戻シ得ルノ證ナキト質取主ニ地券ヲ受
ケシメシトノ證據完全ナラサルトノ二ツニ過キス然ルモハ玆ニ一ツアレハ原裁判所ハ受
戻サシムルヤ論ナキノミ然リ而シテ原裁判所ハ季明後何ケ年相立ツモ受戻シ得可キ證ナシ
トセラレシハ大ナル誤謬ト思考ス既ニ第三條ノ如ク被上告人ニ流地ナリトノ證ナキノミ
ナラス該地ハ法律上受戻シ得ラル、モノトス請フ左ニ之ヲ陳述セン

該地ハ明治二年ヨリ明治八年迄ノ期限ナシ明治六年第十八號公布第十四條ヲ遵奉シ證書
ヲ改正セサルヘカラス然ルニ兩造トモ等閑ニ付シ之レヲ改正セスノ今日ニ及タレトモ兩
造ノ間ニ於テハ依然トシテ質地ノ實アルモノナレハ右第十八號公布頒行以後ノ今日ニ在
テハ之ヲ書改メタルモノト同視スヘキノ理ナリ既ニ之ヲ書改メタルモノト同視スレハ則
チ之ヲ壬申二月十六日以後ノ證書ニ係ル質地ト同ク論セサルヲ得ス左スレハ明治六年第
五十一號公布本文及明治六年司法省第四十六號達ニ依リ糶賣ヲ爲ヘキモノナリ然而メ右
糶賣ノ處分タル質置主カ受戻シ能ハサル時ニ於テ之ヲ用ルモノナレハ其受戻ヲ請求スル

ニ於テハ其請求相立ヘキモノナリトス然ルチ原裁判所ハ此等ノ成文律アルニモ拘ハラ
ス上告人ニ季明後受戻シノ證ナシトシテ上告人ノ請求ヲ斥ケタル最不法ノ裁判ト思考ス

上申書 明治十五年九
月二十五日付

被上告人答辯ニ對シ左ニ辯駁シ併セテ上告ノ論旨ヲ敷衍ス
被上告答辯ノ要旨ヲ摘撮スルニ一ハ地券ノ効力ヲ説キ一ハ上告人ニ質地期限後何時ナリ
トモ受戻スヘシトノ證據ナキヲ述ヘタリ爰ニ原判文ヲ顧ミルニ其第一條及ヒ第三條ニ年
季後何時タリトモ受戻スヘキトノ證據ナシト裁示セラレタリ左スレハ原判文ノ骨子ハ地
券ニアラスシテ期限後受戻サル、ヤ否ノ一點ニ在リトス何トナレハ地券ヲ主トスルニ於
テハ期限後受戻シ得ヘキ證據ノ有無ヲ問フニ及ハサレハナリ縱令期限後何時ニテモ受戻
スヘシトノ證アリトセン平地券ヲ以テ所有權ヲ移轉シタリトスル上ハ期限後受戻シノ證
據何ノ効力ヲ有スルヤ之ニ反シ期限後受戻ノ證據如何ヲ論スルニ於テハ期限中ノ地券ハ
固ヨリ何ノ効力ヲ有セサルナリ原裁判所カ期限後ノ證據ニ付テ裁判セラル、チ觀レハ
期限中ノ地券ハ本件裁判ノ骨子ニアラサルヤ明々白々タリトス然リ而シテ上告人ハ期限後
ニ受戻シ得ヘキノ證據及ヒ法文ノ在ルアルニ原裁判所カ單ニ書面ノ證據ヲ信用シ難シト
セラレタル迄ニテ法文ニ依據セラレサルハ不法ノ裁判ト云ハサルヲ得ス既ニ上告狀末段
ノ如ク法文ニ遵フキハ上告人ニ受戻ノ權充分具備スルモノトス然ニ被上告カ原裁判ヲ辯
護スルニ當テ地券ノ効力ヲ説クノミニテ法文ノ解釋ニ批難セサルハ其法文ニ付テ上告人
ト意見ヲ同フスルヤ亦疑ヒナシトス其被上告ニハ地券ヲ有スルト貢租等ノ義務ヲ盡スト

其地ヲ使用シテ他人カ故障セサルトノ三件備ハル上ハ所有者タル者辯護スルモ貢租等ノ義務ヲ盡スト其地ヲ使用スルトハ質取主ノ常ナレハ以テ所有ノ證據ト爲スニ足ラス本件地券ハ上文ノ理由ニ付亦其効ナシトス左スレハ被上告カ辯護スル廉々一モ允當ナルモノナケレハ亦詳ニ論スルヲ要ス

上申書 明治十五年十月十一日付

被上告ニ於テ此一不動産ノ所有權ヲ移スコトヲ各自ニ明言シ其事ノ信ヲ表スル爲メ各自地券大帳ニ捺印セル旨申立レ上告人ハ被上告ト共ニ地券大帳ニ連印セシコトナシ又地券大帳ナルモノハ讓渡人讓受人連印スヘキノ帳簿ニアラス單ニ地券ヲ請クヘキノ氏名ト其地ノ字番號畝步地價ノミヲ記セシモノナリ決シテ被上告カ申立ル如キ事實ハ之レナキナリ

又被上告ニ於テ法律一タヒ地所賣買讓與ノ事ヲ認許シテヨリ此流地證書ノ變則ハ殆ント跡ヲ絶ツニ至レル旨申立レ明治五年二月十五日ヨリ明治六年七月三十一日迄ハ流地ハ流地賣買ハ賣買ニシテ全ク兩立セシモノナレハ流地ノ跡ヲ絶チシコトナシ被上告カ斯ル滅裂ノ言ヲ吐キ本訴所有權ノ移轉ヲ曖昧ニ付セントスルハ甚不當ノ論辯トス

又被上告ハ上告人ヲ目シテ地券請ケ取調ノ際戸長ヲ勤メアリシ旨申立レ上告人カ戸長ヲ勤メタルハ明治六年四月以後ナリ其以前ニ在テ地券請ノ人名ハ既ニ定マリアリテ上告人カ唯之ヲ取次キ上申セシニ過サルナリ地券下附ハ明治六年六月ナレハ僅々二ケ月間ニ諸事整フモノニアラサルニ據ルモ可知ナリ依テ被上告カ上告人ヲ目シテ當時戸長勤務中

ト論スルハ甚不當ナリトス

明治十五年十一月廿八日付上申書アリ

明治十五年十二月二日付辯駁書アリ

被上告人答辯ノ要旨左ノ如シ

上告者曰ク〔地券ヲ授與スルハ一ツニ行政官ニ在テ其行政官カ兩造間ノ關係如何ヲ判定シテ授與シタルニアラサルニ付行政官カ授與セシトテ之ヲ以テ兩造ノ關係ヲ知ルヘキノ道理ナシトス〕

抑モ不動産ノ所有者タルコトヲ證スルニハ三箇ノ條件具備スルヲ要ス何ソヤ曰ク地券ヲ所有スルト其土地ニ對スル公租ヲ收メ且ツ其他ノ義務ヲ負擔スルト其土地ヲ使用スルモ一言他人ノ故障ナキトノ三者ナリ苟モ此ニ一ヲ缺クハ地所々有者ナリト言ヒ難キモノナリ本訴論地モ亦然リ上告者被上告者カ相互ニ於テ明治二年ヨリ同八年迄七ケ年期ニテ質地ノ約ヲ結ヒ其期殆ント滿ツルニ垂ントスル際即チ明治六年地券發行ノ頃ハ地所大ヒニ其價ヲ減シ土地ニ對スル義務ハ益之レニ反シテ其額ヲ増加シ尙ホ地券名受ノ財費ヲ要スルノ時ナリキ故ニ上告人ハ之レヲ受戻スノ念慮ナク相互示談ヲ以テ本訴論地ヲ流地トシ而シテ雙方地券名受ケ帳ニ捺印シ地券大帳ニ被上告ヘ下附セラレタルモノニシテ夫レヨテ後其所有權ヲ被上告ヘ移轉セシメ該地券ハ被上告ヘ下附セラレタルモノニシテ夫レヨリ已後數年間被上告者カ之レヲ所有シ之レニ對スル公租ヲ納メ之レヲ使用シテ他一言ノ拒障ナカリシハ事實被上告者ニ所有權ノ移リタル明證ニシテ被上告者カ本訴論地ノ所

有者タルト確明ナリトス又行政官カ地券ヲ下附スルニ當テ先キニ土地ニ對スルノ故障如何ヲ取調ヘ然ル後チニ之レニ地券ヲ渡スノ手續ヲ行フハ地券渡方規則ノ恒例ナルノミナラス道理上然カラサルヲ得ス何トナレハ若シ地所ノ所有ヲ證スル地券ヲ上告者カ言フ如ク輕々シク之レヲ渡スルハ焉ソ紛争ノ絶期アルヘケンヤ豈村吏モ亦之ヲ傍觀スヘキ理アラソヤ殊ニ上告者ハ當時戸長ヲ勤メ被上告者ヘ地券ヲ下附セシモノナレハ益々所有權ヲ移シタルト明カナリトス又上告第三號及第九號ハ他村ノ被上告者カ知ルヘキノ術ナシ然レハ則チ年期中質取主ニ地券ヲ附與スル慣例ナリトノ證左タル上告第三號第九號證カ被上告者ニ對シ何ノ効アルヘケンヤ斯ク論スレハ被上告者ハ其地券ヲ所有シ土地ノ義務公租ヲ盡シ之レカ故障ナケレハ地所々有者タル三條件全ク具備シ純然タル所有者ニテ當時上告人ニ於テ流地シタルトハ明晰ナリ果セル哉原裁判所ニ於テ〔甲第三號甲第九號ハ一村民ノ協議ニテ村外ノ原告人カ承諾シタル憑據之レナシ且年季明後モ數年間依然原告ニテ所有シ來リタルモ被告カ之ヲ故障セシ經歷ナキ等ノ實況ニ依ルモ原告ハ當時本訴論地ノ地主ト認メラルヘキ所アリテ地券ヲ授與セラレタル者ト推定シ得ヘシ〕ト裁判セラレタルハ最モ至公適切ナル裁判ナリ

上告者又曰ク〔然ルチ原裁判所ハ流地ナリトモ云ハス又賣買地ナリトモ云ハス唯地券ノ所有スル迄ノモノチ其地ノ所有者ト認メ其事實ノ如何ヲ推究セスシテ云々〕抑モ本訴ノ論地ハ流地ナルヤ將タ賣買地ナルヤヲ裁定スルノ要アラサレハ原裁判所ハ蓋シ之レヲ明記セサリシナリ凡ソ土地ノ所有者タルチ證スルモノハ地券ヨリ大ナルハナシ被上告者ニハ既ニ地券ヲ下附セラレ且ツ貢租ヲモ辨シ來リ數年間所有スルノ實跡ハ純平

タル所有者ナルトハ其間隙ヲ容ル、隙アラサレハ唯本訴論地ハ何ケ年立ツモ受戻スヘキ特約アリシ質地ナルヤ且ツ上告第三九號證契約ハ該村外ノ人民即チ之レニ干預セサルモノニ波及スヘキヤ否ヲ推定スルヲ以テ足ルモノナレハナリ而シテ上告人カ何ソ年相立モ受戻スヘキ特約ナリト證スル上告第一號證書扣テ確カシムル村役場帳簿ハ其筆者上告者タリ上告者ハ當時村役場ノ書記ヲ勤メ村役場帳面ヲ書クノ能力アリトスルモ憐ムヘシ其書記ヲ勤メタリシト證スル上告第四號證ハ後日記憶シタリトノチ以テ書シタルニ過キサルノミナラス當時上告者カ書記ヲ勤メサルノ反證ハ被上告一二號證ニ於テ判然タリ然レハ則チ例ヘ該帳ニ之レアルモ豈ニ之レニ信ヲ置クヘケンヤ既ニ被上告者ハ一二號證アルアリテ其書記タラサリシチ證スル上ハ其書入ハ己レチ利セン爲メ縱ニ後日ノ作爲ニ出テタルモノナリト推測セサルヲ得ス何ソ記憶書ニ過キサル上告第四號證ヲ以テ被上告第一二號證ヲ擊破スルヲ得ヘケンヤ良シ書記ヲ勤メタルモノトスルモ自己ノ利害ニ關スルコトチ證スルモノチ自己カ登記シ自己ノ方ニ置キタルハ其効用ナキコト三歳ノ兒童モ能ク了解スルナルヘシ（法例ニ戸長カ質地契約等ヲ結フニハ其與書調印等ハ副戸長チシテ之ヲ爲サシムル等ノコトアレハ上告第二號ノ信用シ難キノミナラス其効力チキ明）又上告第三九號ノ證ハ前既ニ述フルカ如ク特ニ一村内質地ノ關係アル人民ノミ之ヲ遵奉スルノ義務アルヘキモ他村ノモノカ之レニ從ハサルヲ得サル道理ナキナリ況ンヤ被上告者ノ如キハ固ヨリ知ラサルモノナルニ於テオヤ以上ニ論シタルカ如キチ以テ流地賣買地云々ノ事ヲ言フノ要アラサレハ原裁判所カ此事項ニ對シ判定セサルモ怪ムニ足ラサルモノトス

第二條

上告者曰ク〔本訴ノ質地タル大原村内ノ地ニシテ大原村内ハ一般協議上質取主ニ地券ヲ請ケシメタルモ眞ニ所有權ヲ移シタルニアラサルニ付爾後質置主カ受戻シタルト多々アリトス〕

本項ハ文意漠然其意ヲ了解セサレト暫ク之レヲ熟考シ之レヲ定メ然ル後論駁ヲ與ヘントス

大原村内ハ一般協議上質取主ニ地券ヲ請ケシメタルモ個ハ所有權ヲ移シタルニアラス何トナレハ質取主カ地券ヲ受ケ然ル後又之レヲ受戻シタルト多々アリト言フニアルヤ今被上告之レニ對スルニ先キ一言セサルニアラサレハ能ハス何トナレハ其受戻シタル質置主質取主トモ村内ノモノナルヤ將タ大原村ノ人民ト他村ノモノトノコナルヤ若シ他村ノモノナリセハ何レカ質取主ナリシヤノ事是ナリ既ニ本項ヲ論スルニ於テハ暫ク上告第三號上告第九號ヲ眞正ノモノト假定シテ之レヲ論スルニアラサレハ上告者ヲシテ迷夢ヲ覺ラシムルヲ難キ故假リニ上告第三九號ヲ眞正ノモノトシテ之レヲ論ス夫レ質取置主トモ一村内ノモノナレハ固ヨリ上告第三九號證契約ニ與カリ之レヲ承認シタル契約主ノ一部分ナレハ其契約ヲ遵奉スヘキノ義務アルモノニテ之レニ隨ヒ地券授受ノ後又其土地ヲ質置主ニ戻シタリトテ決シテ怪ムヘキノモノニアラス何トナレハ其人ニシテ其契約即チ上告者第三九號ノ協議ヲ守ルヘキノ義務アルモノナレハナリ又大原村ノモノト他村ノモノトノ間ニ取結ヒタル契約ニシテ上告者第三九號ノ契約ヲ遵奉セサルヲ得サルモノトスルハ實ニ

妥當ヲ缺キタルモノニシテ頗ル契約法ニ背反スルモノト謂ヘシ上告第三九號ハ村内特ニ質地ノ關係アルモノ、ミノ協議ヨリ成立タル制ナラン其制ヲ以テ他村ノモノヲ箝制スヘキノ道理ナキノミナラス其協議ニ干預セサルモノハ其契約アルヲ知ラサルモノト見做シテ可ナリ既ニ然レハ此制ニ因ルヘキノ義務ナキノミナラス契約ハ總テ契約ヲ爲シタル相互間ニノミ効力ヲ有シ他ニ及ホサルハ法理ノ然ラシムル所ナレハナリ良シ他村ノモノニテ前條ノ事アルモノハ其協議上ニ成立タル制即チ上告者第三九號ノ契約ヲ承知シテ之レニ從フコトヲ誓ヒタル契約主ノ一人ニシテ自ラ其義務ヲ生セシメタルモノニ限レリトセサルヲ得ス然レハ則チ其契約ヲ知ラス其契約ヲ知ラサル故之レニ從フノ義務ナキ被上告人ニ上告第三九號證ノ効力ヲ連及セシメントスルハ牽強附會ノ陳供ニシテ決シテ採ルコト足ラサルモノトス

抑モ物ニ本末ノ階級事ニ終始ノ別アルハ世上最モ要用ノモノニテ其事ノ大ナルヲ問ハス其物ノ微ナルヲ論セス苟モ本末緩急ノ順序ノ忽カセニスヘカヲサルハ論ヲ竣タサルナリ殊ニ重且ツ大ナル不動産ノ所有權ヲ移轉スルカ如キニ至リテハ人々注意ニ注意ヲ加ヘ幺微ノ事モ之レヲ顧慮シテ只管其手續ニ一點ノ瑕瑾ナカラシムコトヲ勉ム夫レ然リ而シテ不動產ノ所有權ヲ移スヤ必シモ二人ノ意志合同シ一方ハ之レヲ讓ランコトヲ欲シ一方ハ之レヲ讓リ受ケンコトヲ願ヒ茲ニ其約始メテ整ヒ而シテ後チ相互其約定ヲシテ法律上ノ効果ヲ得ン爲メ所在管轄ノ所謂戸長役場ニ至リ讓與人讓受人ノ雙方意志合同シテ此一不動産ノ所有權ヲ移スコトヲ各自ニ明言シ其事ノ信ヲ表スル爲メ各自地券大帳ニ捺印ス此ニ於テ戸長

ハ其契約ノ完全シタルモノニテ他一點ノ瑕ナキヲ保シ以テ之レヲ中央政府ニ具信ス中央政府ハ之レヲ准允シテ讓受人ニ對シ其土地ニ就テノ物權ヲ得タルヲ證スル爲メ與フル處ノモノハ即チ地券ナリ此ノ如キ鄭重ナル式ヲ要シテ下附セラル、地券ナレハ地券ハ充分其土地ノ所有者タルヲ證スルニ餘リアルモノナリ却說シ往昔即チ明治五壬申年第五十號公布以前ハ土地ノ賣買ヲ爲スハ法律上之レヲ許サ、リシヲ以テ質地ノ如キハ其定期ノ經過シ之レヲ受戻サ、レハ質置質取ノ二者相互ニ於テ其質地ノ所有權ヲ移轉爲サシムルニ一ツノ約定ヲ爲セリ而シテ此約定ニ因リ雙方授受スル證書ヲ名ケテ流地證書ト云フ此流地證書ヲ以テ讓受人ハ其所有ヲ證シタリト雖モ法律一タヒ地所賣買讓與ノ事ヲ認許シテヨリ此流地證書ノ變則ハ殆ント跡ヲ絶ツニ至レリ然カラシ前ニ論スル處ノ重大ナル式ヲ履行シテ地券ヲ受ケ其所有權ノ移轉ヲ證スルニ於テハ豈ニ故ラニ流地證ノ煩ヲ爲スヘキノ益ナキニ於テオヤ本訴訟地ノ如キモ明治六年中地券發行ノ際ハ地所其價ヲ減シ土地ニ對スル義務ハ之レニ反シ且ツ地券名受ノ入用多額ヲ要セシ故上告者ハ之レヲ受戻スノノ念慮ナク被上告者ニ之レヲ流地セント欲シ雙方其意志結合シ前ニ論スル手續ノ一ツモ缺ナク地券大帳へ上告者被上告者捺印シ其所有權ノ移轉シ又他ニ障害ナキヲ保セリ抑モ地券大帳ナルモノハ地券發行ノ際一村ノ土地ヲ所有スルモノハ細大漏スヲナク擧テ以テ之レニ掲載シ其所有ヲ證スルモノナレハ其中一箇ノ落筆アレハ其所有者カ一箇ノ地所ヲ失フニ至ル是ヲ以テ之レヲ鄭重ニシテ取調へ補フカ如キモノ故地券大帳ニ讓與人讓受人連署スルハ全ク所有權ノ移轉シタル確證ナリ個ハ唯一般ノ慣例ノミナラス地券

渡方規則ニ因ルニ明瞭ナリ若シモ此手續ノ一ヲ缺キナハ官何ソ之レニ地券ヲ下附スヘケンヤ然ルニ當時ノ戶長即チ上告者カ之レヲ官へ具信シテ以テ地券ヲ被上告者へ與ヘタル儀ニテ實ニ自由合意真正ノ契約ヨリ成立チ下附セラレタル地券ナレハ充分當時被上告者カ其土地ノ所有權ヲ得タルヲ證スルヲ得ヘシ況ンヤ上告者ハ當時戶長タリシオヤ此ノ如ク前々ヨリ論スル所ノ公正ノ式ヲ履行シテ得タル地券ナレハ例へ流地證ナキモ之レヲ以テ所有權ヲ移サ、リシト言フヲ得ヘカラサルヤ確明ナリ又上告者カ被上告者へ所有權ヲ移轉スル際ハ公正ノ手續完全ニ相互隔心一タモナケレハ故ラニ流地證書ヲ授受スルノ煩ヲ要スヘキノ非ラサリシモ本訴上告者ニ對シテハ流地ノ證ナキ云々ト喋々之レヲ辯明スルモ前既ニ業ニ論スル如クノ手續ヲ結了シテ受ケタル地券故被上告ノ地券ハ本訴訟地ノ所有者タルヲ證スル充分ナル効力アルモノナリ前ニ論述シタルヲ反復セハ上告者ノ不當モ恐クハ思ヒ半ハニ過クルニ至ラント思考ス

上告者曰ク〔況ンヤ上告第三號五號六號七號八號九號證アルニ於テオヤ〕
 此事ニ對シテハ本證閱見ノ上ニアラサレハ充分論駁スルヲ得サレハ今ヤ之レヲ論セサルモ後日ナ期シ必ス之レヲ論セントス上告者又曰ク〔被上告者於テハ所有ヲ移セシノ證一モ之レナク云々〕

此事ニ對シテハ前項ニ詳論シタレハ今又之レヲ贅セズ
 上告者曰ク〔抑土地所有者アリテ然ル後地券ヲ受クルモノニテ地券アリテ始メテ所有者アルニアラス〕

本項ハ上告者カ事實ヲ緘晦シテ萬一ヲ僥倖セントシ却テ自己ノ不利ヲ來セシモノナリ其故ハ上告者ノ言フ如ク土地所有者アリテ然ル後地券ヲ受クルハ條理上然カアルヘキモノニテ本訴論地ノ如ク被上告人へ所有權ノ移リタル後之レニ附與セラル、ニ地券ヲ以テセラレタルモノ、如シ實ニ然リ上告者ノ言フ如ク地券アリテ所有權ノ移轉スルモノニハアラサルナリ以上ノ論辯ニ因レハ上告者ハ自己ノ利益ヲ圖リ却テ其事實ヲ吐露シタルモノナリ宜ナリ原裁判所カ地券ヲ有スル被上告者ニ所有ノ權アリトセラレタルハ適當ノ判決ナリト仰カサルヲ得ス

第三條 本條ニ於テハ上告第三條ト

第四條トテ合セテ論駁ス

上告者又曰ク(然ルヲ原裁判所ハ此ニ號證ヲ不真正ノ如ク看做シ云々)

本項ハ曩キニ辯論シタルハ今又茲ニ詳論スルノ要アラサレハ尙ホ茲ニ之レヲ約述セン甲第二號帳簿ノ後日ノ作爲ニ出テタルハ前項ニ言フ如ク公正ノ帳簿ハ之レヲ記スヘキモノ、外左右スルヲ能ハサルヤ誰人モ知ル所ナリ而シテ被上告第一二號證アリテ上告者カ當時役場ノ書記ニアラサリシコト明白ナル以上ハ上告者第二號證ハ効力ナキモノナリ効力ナキ證書ノ排斥セラレタルハ道理ノ然カラシムルモノニシテ原裁判ノ不法ニハアラサルナリ

上告者又曰ク(原裁判所ハ季限後何ケ年相立ツモ受戻シ得ヘキ證ナシトセラレタルハ大ナル誤謬ト思考ス)

期限後何ケ年相立トモ受戻スヘキ契約ナリトノ證ハ上告者第二號證ナラン其二號證ハ前

業ニ已ニ論スル如ク證トスルニ足サルノ證ナリ證トスルニ足ラサルノ證ヲ排斥セラレタル原裁判ハ決シテ誤謬云々ノ語ヲ下スヘキモノニアラス上告者又曰ク(然ルニ兩造トモ等閑ニ付シ之ヲ改正セスシテ今日ニ及ヒタレトモ兩造間於テハ依然トシテ質地ノ實アルモノナレハ云々)トアレハ質地ノ實ヲ證スルニハ何ノ證據アリテ質地ノ實アリト言フニアルヤ其證據一ツモアラスシテ依然ト質地ノ實アルトハ眞ニ架空ノ論辯ナリ斯ク論シ來レハ上告者カ以下ニ言フ糶賣云々ノ事ニ對シテハ別ニ駁論ヲ與フルノ要アルヲ知ラス上來論シタル如ク上告者ノ二號證ハ被上告者ノ一二號證アルアリテ真正ナラサルコト明晰ナリ既ニ明晰ナレハ何ケ年相立ツモ受戻スヘキ約ナリト言フ事ハ消滅セリ又地券アルモ流地證書ナキハ所有權ナシト言フト雖モ明治七年第百四號布告ヲ以テ見レハ契約證書ナクモ地券證アルモノヲ以テ真正ノ所有者トセラレタリ然レハ則チ流地證書ナキヲ以テ被上告へ所有權ノ移ラサリシモノナリトノ陳供ハ是又探ルニ足ラサルモノナリ

退申書 明治十五年十一月十六日付

本案上告者ハ本地論地ヲシテ季明後何ケ年立ツモ受戻スコトヲ得ラルヘキ質地ナリトシ之レヲ證スルニ上告第一二號證ヲ掲ケ喋々スルト雖モ上告第一號證ナルモノハ固ヨリ被上告ニ於テ看認タルモノニ非ラサルノミナラス本訴論地ノ質地證文ハ明治六年地券發行即チ上告者カ被上告へ本訴論地ノ所有權ヲ移シタル當時之レヲ返戻シタルモノナレハ今一號證ヲ質地證文ノ寫シナリト言フト雖モ其陳辯ハ無効ナリ良シ一步ヲ讓リ假リニ上告一號證ヲ眞ナルモノトシ果シテ明治二年ヨリ全七年迄ノ質地ナリトセハ何ソ七年以後十

四年迄八年間之レテ黙視シ置キテ然ル後本訴ニ及フヘキ理アラサルナリ此一點ヲ以テ見ルモ明治六年地券發行ノ際本訴論地ノ所有權ヲ移シタルヲ證スルニ足ルモノトス又條理上ヨリ之レヲ見ルモ上告者ハ本訴論地ヲ受戻スコトノ念慮ヲ放棄シタルヲ推測スルヲ得ヘケレハナリ又其上告二號證ニ役場帳簿ニ於テ何ケ年立モ受戻ヘキトアルモノハ頗ル怪シムヘキモノニシテ信スルヲ得サルモノナリ其故ハ被上告第一二號證ニ於テ上告二號證成立ノ當時即チ明治二年中上告者ハ役場ノ書記ニアラサリシヲ充分證スルニ足ル上ハ固ヨリ該帳簿ニ登記スヘキ緣故ナキモノナリ良シ假リニ之レヲ記入シタリトスルモ東京控訴裁判所ノ判文ノ如ク自己ノ利害ニ關スル事ヲ自己カ登記シタリトテ之レヲ以テ證據ト爲スニ足ラサルナリ然リ而シテ爾來明治六年四月ヨリ上告者ハ戸長ヲ勤メ該帳簿ノ手許ニアレハ其際ニ於テ上告者カ自己ノ利益ヲ圖リ該帳簿ニ記入シ之レヲ爭訟ノ具トシテ本訴ニ及ヒタルヲ推測スルニ餘リアリトス

右ノ如キ理由ナレハ上告第一號證ハ固ヨリ被上告者ノ看認サル處同第二號證ハ前陳ノ如キ次第ニテ上告者カ明治二年中ニ役場ノ帳簿ニ干預スルヲ得サルモノナレハ明治六年四月後上告者カ戸長勤務中ニ該帳簿ニ記入シタルナリ然ラスンハ何ソ明治七年ヨリ十四年迄八年間黙許シ然ル後本訴ニ及フヘキ條理アラサレハ旁上告第一二號證ハ毫モ効力ナキモノニ有之候間終審裁判所ニ於テ上告者ニ本訴論地ヲ受戻ス權利ナシトセラレタルハ至當ノ裁判ナリト確信ス

辯明

右上告狀答辯書其他追申書并ニ原裁判書類ヲ參照シ之ヲ考按スルニ本訴論地ハ明治二年ヨリ八年迄七ケ年ヲ期限トシ上告人ヨリ被上告人ヘ質地ニ渡シタルモノナルコトハ上告被上告雙方異議ナキナリ而シテ上告人ハ明治十四年五月中之ヲ受戻サント起訴シ其樞要ノ證據トシテ差出セシハ上告第二號三號及ヒ九號ナリ

原裁判所ハ右第二號證戸長カ保證セシ村簿ノ寫論地ノ肩書ニ「年季明何ケ年相立候共請返候約定」ト記載セシ筆者ハ上告人ナリトセリ而シテ上告人カ明治元年ヨリ翌二年十二月迄村役場ノ書記ヲ勤メタリトノ證據第四號證ハ舊戸長ノ記憶迄ニ止ルモノトシ之ヲ採用セカリシナリ然レハ明治二年中論地質入ノ際上告人ハ村簿ノコトニハ更ニ關係ナキ者ト認タリト云ハサルヲ得ス又書記ヲ勤メタルモ自己ノ證ヲ自己ニ登記シタルニ付信用セストテ之ヲ斥クケタリ既ニ上告人ノ筆跡ト認タル以上ハ苟モ公正ナル村役場ノ帳簿ニシテ其記入ノ事柄タル大ニ人民ノ權義ニ關スルモノナレハ其記錄ノ次第ハ之ヲ當該ノ村吏ニ尋問スル等ノ手順ナシ十分取調フヘキニ原裁判所カ其義ニ及ハサリシハ審理ヲ盡サ、ルモノトス

又右第三號九號ニ於テ地券發行ノ際都テ質地ハ一旦質取主ニ於テ地券ヲ受クルコトニ村中決議ノ上實行セリトノコトニ付戸長役場并ニ上告村伍長等數十名ノ保證ニ對シテハ被上告人ハ村外人ニシテ之ヲ承諾シタルノ證據ナシトテ之ヲ斥クケ而シテ上告人カ質入期限後數年間黙過セシ事跡アルヲ以テ被上告人ハ論地ノ地主ト認ラルヘキ所アリテ地券ヲ授與セラレタル者ナラント推定シタリ成程上告人ト被上告人トハ村ヲ異ニスルモ直接ノ隣村

ニシテ其住居モ遠隔シタルニ非サル趣加之上告人ハ右村中議決ノ効力他村迄モ及セシ證
 據トシテ第五六七八號證ヲ掲ケダレハ果シテ被上告人ニハ及ハカリシヤチ（村外ニ在テ
 承知セスト
 ノコ被上告人）審尋セサルヲ得ス又上告人カ期明後數年間黙過セシモ若シ無年季ノ質地
 ノ論辯ナシナリセハ敢テ妨ナキコナリトス又被上告人カ論地ノ地券ヲ受タルハ質入年期（尙二ケ
 年アリ）中
 ナリ凡ソ其所有ノ田地ニ離ルハ農民ノ最モ厭フ所ナリ若シ論地ハ質入年期中之チ其儘
 流地セシカ如事アリジトセハ普通ノ慣例外ノ事ト云ハサルヲ得ス普通例外ノ事ナルニ於
 テハ必ス特別ノ契約ナクシテハアラサル道理ナルニ被上告人ハ流地ノ證據ヲ舉タルニモ非
 ス唯地券ヲ受タルヲ以テ該地ハ流地ニナリタリト云ニ過サルモノナレハ此地券受領ノ事
 ニ至テハ其原由如何ヲ深ク取調フヘキハ當然ナルニ前顯ノ如ク流地證無之コニモ關セス
 又村議ノ被上告ニ及ヒタルコアルヤ否チモ審究セス地券ハ受クヘキ理由アリテ之ヲ受タ
 ルナラント推測ノ裁判ヲナセシハ審理不盡ナリトス
 但其他縷々上告スレハ緊要ノ點ニ非サルヲ以テ逐一辯明セス

判決

右辯明ノ如クナルニ依リ東京上等級裁判所ニ於テ與ヘタル明治十四年十二月十七日ノ裁判ヲ
 破毀シ更ニ名古屋控訴裁判所ヘ移スニヨリ同裁判所ノ裁判ヲ受クヘキモノナリ
 但上告ニ係ル入費ハ被上告人辨償スヘシ

第五百四十八號

○田畑宅地買戻裁判執行願上告ノ判文（明治十五年五月十一日上告
 全十五年十二月十九日申渡）

大分縣豊前國下毛郡船場町平民

三 木 伊 平

東京府京橋區南紺屋町十一番地

寄留埼玉縣士族

高 橋 一 勝

大分縣豊前國下毛郡西谷村士族

横 井 勇 治

被上告人

右代言人

上告人

本訴ハ田畑宅地買戻契約履行ノ裁判已ニ確定シ其執行ノ一部分評價ノコヨリ紛議ヲ生シタ
 ルモノニシテ被上告人ニ於テ始審廳ヘ右處分ヲ請願シタル要旨ハ明治十二年九月廿八日決
 定シタル評價書ニ依リ執行アラソコヲ求メ上告人ニ於テハ本案ノ裁判執行スヘキハ異議ナ
 シト雖モ該評價書ハ不審ノ廉アルニ依リ已ニ拒絕シタル後ニ成立タルモノナレハ該評價ニ
 テハ執行シカタク旨抗辯ス始審廳ニ於テ右ノ請願ニ對シ明治十三年十月十六日左ノ言渡シ
 チ爲シタリ

凡ソ裁判ノ執行ナル者ハ身代限等ノ處分ヲ除ク外ハ總テ行政官ヘ出願シ其處分ヲ要スヘ
 キ筋合ニ付裁判所ニ於テハ已ニ確定セシ裁判ノ執行願ニ對シ再ヒ裁判ヲ與フヘカラサル
 者ニ付本書却下候事（錄）

被上告人ハ右處分ノ旨ニ從ヒ中津警察署ヘ執行處分ヲ請願シタルニ同署ニ於テ裁判執行ハ
 裁判所ニ屬スル旨言渡シタルニ付明治十四年九月十六日尙又始審廳ヘ執行處分ヲ請願ス同

應於明治十四年九月十七日左ノ旨渡シテ爲シタリ

既ニ明治十三年十月十六日附テ以テ當廳ニ於テ却下ノ處分ニ及ヒタルコト付若シ其處分ニ不服アラハ控訴又ハ上告ナスヘキ筋合ニシテ同一事件ニ付再ヒ同裁判所ニ於テ處分ヲ與フヘキ筋無之ヲ以テ本書ハ受理不及候事

被上告人ニ於テ右處分ヲ不當ナリトシ上等裁判所へ控訴セリ其要旨ハ該執行處分ヲ再度初審廳ニ請願シタル精神ハ行政官ニ於テ上告人カ告訴ヲ却下セラレタル上ハ評價ノ不正ナラサルヲ確定セシニ付直チニ裁判執行ヲ命セラレシメテ求メタルモノナレハ前後ノ請願大ヒニ其趣旨ヲ異ニセリ且甲第八號評價書ハ不當ノ所爲ナキ旨申立上告人ニ於テハ始審廳カ職權ヲ以テ處分シタル事柄ニ對シ是非ヲ陳辯スヘキ條理ナシト雖モ暫ク答辯ノ義務アルモノトシテ之ヲ論スルモ被上告人ハ同一事件ヲ同裁判所へ再度請願シタルモノナレハ同廳於テ受理セサリシハ當然ナリ且評價人カ上告人ニ對シ強壓ノ處業ヲナシ及ヒ甲第八號評價書ハ不完全ナルカ故之ヲ定全ナラシメハ決シテ執行ヲ怠慢セサル旨申立タリ原裁判所ニ於テ明治十五年二月二十一日判決ヲ與フル左ノ如シ

右ニ掲載(本訴ノ基源ヨリ控訴ニ至ル迄ノ事實ヲ列記ス)セシ如キノ事實ナルヲ以テ明治十三年九月廿八日ニ決定シタル評價書ハ不正且壓制ノ所爲ナケレハ其評價決定セシ調書ニ基キ被告(上)ハ速カニ該地賣戻ノ執行ヲ盡スヘキモノトス

第一條

錄

上告人ニ於テ右判決ヲ不當ナリトシ破毀ヲ求ムル上告ノ要旨左ノ如シ

被上告人カ兩度ノ願旨ヲ案スルコ均シク被上告第八號證評價書ニ依リ論地ノ買戻シヲ執行致シ度ト云フコ外ナラス故ニ本訴ハ同一事件ニ付再ヒ請願シタルコト判然タリ抑一事再訴ニ係ルハ再ヒ裁判又ハ命令處分スヘキモノニアラサルハ普通ノ法理ナリ仍テ初審廳カ之ノ却下シタルハ當然ナルニ原裁判所ハ此法理ニ背キ裁判ヲ下シタルハ不法ナリ又原裁判所カ他ニ理由アリテ初審廳カ却下シタルヲ不當ト認メラレシナラハ其理由ヲ明示セラルヘキ筋ナルコ此爭點ニ對シ一ノ判語ヲモ與ヘス輕々シク上告人ヲ曲者トシタルハ不法ナリトノ事

第二條

評價人カ評價スルノ權ヲ得タルハ原被告ノ依頼ニ依テ得タルモノナレハ依頼ヲ解ケハ其權ナキハ勿論ナリ而シテ評價人ノ未ダ評價ヲ終ラサル以前事故アリテ依頼ヲ斷リタルハ評價人ヨリ中津警察署へ差出シタル書面中ニ判然タリ又該評價書ヲ被上告人へ渡シタル次第ヲ問ヘハ(上告人ハ評價書ヲ受取ラス)評價人ノ依頼ハ裁判所へモ貫キ居リ殊ニ上告人ノ心底官ヲ蔑ニスルトノ想像ヲ以テ渡シタルコト該上申書ニ明記アリ且明治十三年十月廿五日附評價人ノ上申書ニ「評價帖ハ壓制ヨリ成立候故原告ヨリ取戻シ評價ハ取消候方至當ノ御説諭御座候云々前文ノ通り被仰聞候ニ付原告へ其旨申入候得ヒ差返シ不申候間此上致シ方無御座」トアルヲ見ハ假令壓制ノ處置ナシト認定セラル、ニモセヨ評價ノ依頼ヲ斷ルヘキ相當ノ事由アリシヲ及ヒ斷リナシタルハ評價書ヲ被上告人へ附與セシ以前ナルコト明瞭ニシテ依頼ニ基ク權ハ此時消滅スヘキ道理ナレハ評價ノ當否壓制ノ有無ニ拘ハラヌ該

評價ノ無効タルヘキ筋ナルコ原裁判所ハ此争點ニ對シ更ニ判語ヲ與ヘス唯リ該評價書ハ不正且壓制ノ所爲ナケレハトテ評價書ハ完全無缺トセラレタルハ不法ナリトノ事
本院ニ於テ辯明及ヒ判決ヲ與フルコ左ノ如シ

辯明

第一條

本按ハ主ナル訴訟事件ノ裁判確定後從タル執行上ノ事ニ付原被告ノ間ニ一ノ紛議ヲ生シ始審廳ノ處分ヲ請願セシ處行政官ノ處分ヲ受クヘキ旨言渡セシニヨリ執行請願者其旨ニ從ヒ警察署ヘ出願セシ處同署ニ於テハ裁判所ノ處分スヘキ事件ナリトシテ之レカ處分ヲ爲サス依テ更ニ始審廳ヘ出願セシコ同一ノ事件ニ付再ヒ處分スヘキ筋ナキ旨ヲ以テ願書却下シタリ依テ請願者更ニ控訴裁判所ヘ出願シ茲ニ初メテ裁判ノ結果ヲ得タルモノトス
上告人ハ始審廳カ最初ノ言渡シニ對スル控訴期限ヲ經過シタルモノト看做シ被上告人カ同一事件ニ付再度請願ヲナシタルモノナレハ受理スヘキ筋ナシトノ所論アレモ訴訟ノ本件ハ已ニ確定シ其裁判執行行ヒノ事ニ付キ始審廳ト警察署ト意見ヲ異ニシ其間時日ヲ費シ終ニ再度請願ヲ爲スノ運ヒニ至リシモノナリ若シ原裁判所ハ之レヲ受理スヘカラサルモノトセハ該裁判執行上ノ紛議ハ處分ヲ求ムルノ道ナレハ或ハ訴訟ノ本件ヲ執行スルヲ得サル場合ニ至ルヘシ豈此ノ如キ道理アランヤ仍テ本件ハ通常控訴期限ヲ過キ去リタルモノト等シク論スルヲ得サルモノトス

原裁判所カ始審廳ノ却下ヲ不當ト認ル上ハ其理由ヲ明示スヘキ筋ナルニ一ノ判語ヲモ與ヘサルハ不法ナル旨申立レモ上文辯明ノ如ク受理スヘキ理由アツテ受理シタルモノナレハ其理由ヲ明示セサル廉チ以テ破毀ノ原因トナスヲ得ス

第二條

評價人撰定ニ付明治十三年六月廿四日始審廳ヘ差出シタル書面ニ(私共熟談ヲ以テ更ニ該地明治九年中評價下垂那角木村戸長吉田近藏云々右三名へ原被告共依頼シ其三名ニテ決定スル評價ヲ至當トシ雙方異議申立ス云々)トアリ又明治十三年七月十日戸長吉田近藏ヘ宛タル書面ニ原被告ノ間ニテハ兎角協議整ヒ兼ルヲ以テ別紙人名ノ内(別紙ニ評價人名記載)ニテ貴殿ヘ撰定方ヲ依頼シ貴殿相當ト見込ノ人ヲ以テ今回ノ評價人ト定メ貴殿ト三名ノ處ニテ該地明治九年分ノ評價人名撰定方ハ勿論該地ノ評價ニ付テハ拙者共ニ於テ後日ニ至リ聊苦情中立間敷)トアリ又明治十三年八月四日前同人及ヒ外二名へ宛タル書面ニ(貴殿へ御依頼申上候儀ハ別紙ノ通大分支廳へ上申有之候得共原田氏差支ニ付今回更ニ貴殿方へ該地評價御依頼申上候間御決定被下度然ル上ハ拙者共ニ於テ少シモ異議申間敷)トアリ茲ニ依テ之ヲ視レハ雙方ニ於テ吉田近藏外二名ノ評價ヲ以テ決定スヘキトノ契約タルヤ論ヲ俟タス果シテ然ラハ假令上告人ニ於テ該評價ノ成立ナル以前評價人ヲ謝絶スルノ手續ヲナシタリトスルモ被上告人カ之ヲ承諾セス評價人ニ不正ノ所爲ナキ上ハ素ヨリ謝絶ノ効ナキヲ以テ右評價人ノ評價ニ對シ異議ヲ稱ルコヲ得サルモノトス抑モ上告人カ原裁判所へ提供セシ書面ニ依テ見レハ明治十三年九月廿八日決定シタル評價ハ

已ニ謝絶シタル後ニ成立タル不正ノ評價ナリト云ニ在リ故ニ原裁判所ハ前文ノ約定及ヒ
其他數項ノ事實ヲ掲ケ(右ニ掲記セシ事實ナルヲ以テ明治十三年九月廿八日決定シタル
評價調書ハ不正且壓制ノ所爲ニアラサレハ其評價決定セシ調書ニ基キ被告(上)ハ速カコ
該地賣戻シノ執行ヲ書スヘキモノト言渡シタルモノナレハ争訟ノ點ニ對シ判決ナカリ
シト云フヲ得ス

明治十三年十月廿五日評價人ヨリ中津警察署ヘ差出シタル上申書ニ依ルモ評價ノ依頼ヲ
斷ルヘキ相當ノ事由アリシコト明瞭ナル旨申立レ右申書ニ(評價ハ取消候方至當ノ御
説諭御座候得共私共ニ於テハ最初ヨリ原告代人被告代人ノ依頼ヲ受ケ然ル後着手仕候事
柄ニテ決シテ私共ヨリ求メ候コト無之候得共前文ノ通り被仰聞候コト付原告(被告上)ニ其旨
申入候得共差返シ不申候間此上致シ方無御座尙又私共ニ於壓制等致候覺無御座候ヘ共壓
制ノ御見込モ候ハ、右評價ヲ取消候ト又ハ私共ニ相當ノ御處分被成下候共公平ノ御處置
被成下度云々トアル如ク右書面ハ評價人ニ於テ不正壓制等ノ所爲ナキ旨陳辯シタル文
書ニシテ上告人カ評價人ヲ謝絶スヘキ相當ノ事由アル憑據トナスヲ得ス

判決

前條々ノ筋合ナルヲ以テ長崎控訴裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキモノニアラストス
第五百四十九號

○質地受戻上告ノ判文(明治十五年八月十四日上告
全十五年十二月十九日申渡)

静岡縣伊豆國田方郡輕井澤村平

民大井又市代理人

神奈川縣橫濱區野毛町二丁目五

十五番地平民

小 木 半 兵 衛

上告人

静岡縣伊豆國田方郡田代村平民

鈴 木 小 三 郎

被上告人

質地受戻一件静岡始審裁判所ノ終審裁判ヲ不當トシ上告シテ破毀ヲ求ムル要領左ノ如シ

第一 原裁判所判文ニ質地タルノ證左ナシトアレ共現ニ質地タルノ證據ニハ第一甲第
一號質地證文ノ扣アリ第二甲第二號證ノ通り當時ノ名主舊戸長并當今ノ戸長等於テ年
季地ナリト當時ノ事實ヲ保證シ其偽リナキヲ證明スル上ハ是又質地タルノ證據ナリ第
三甲第三號朱書ノ通り質地ハ質地取主ニ地券ヲ受タル慣習ハ原被告村而已ナラス伊豆
全國此例アリト證明スル上ハ被告カ地券ヲ受タルモ質地ノ性質ニ依テ受タルコト推定ス
ルニ餘リアリ右數證ハ起訴者於テ質地ナリト證明スル緊要的ノ證左ナルコト之ニ一片ノ
判明ヲ與エラレサリシハ聽斷ノ定規ニ乖ク不當ノ裁判ト思考ス

一右質地タルノ所以ヲ詳細ニ陳述スレハ質地ハ質地取主ニ而已證書ヲ有シ置主ニ證書
ヲ有サ、リシハ我國從來ノ慣行ニシテ其例少シトセス故ニ質地取主タル被告ニ證書ノ
存在セサル限リハ置主ノ手ニ存スル質地證ノ扣ヲ以テ確實ノ證據ト看做スヘキハ條理
ノ然ラシムル處ナラン況ヤ甲二三號證ノ通當時ノ事實ヲ證明アリ加之明治五年二月ハ

未タ地所賣買ノ禁アリ其禁令ノ當時ニアリテ賣買ス可キ道理ナキヲ以テ看ルモ質地タルヲ明白ナリ其質地ヲ甲第三號證明ノ如ク慣習ニ依テ被告ヘ地券ヲ受サシメタルハ眞ノ事實ナルヲ以テ彼ノ大藏省壬申第廿五號第三條書式等ニモ基カサルナリ如斯質地タルハ證據ニ依ルモ事實ニ依ルモ歴然ナルニ證左ナシトノ判明ハ探證ヲ誤リタル不盡不當ノ裁判ト思考ス

第二 原裁判所判文ニ天保五年ノ高帳ニ記載アル十ヶ年季ナリトノ文字ハ墨色筆勢異ルヲ以テ同時ノ記載ト看認難シトアレ共假令同時ノ記載ニアラサルモ苟モ村吏等ノ職務上公簿ニ記載アル事實ニ就テ當時ノ事柄ヲ保證シ其偽リナキヲ證明スル以上ハ全ク虛飾ノ證明ナリトハ云フ可カラス若シ村吏等カ故意ヲ以テ證明シタルトノ舉證アラハ格別否ラサレハ公簿ニ因テ證明シタル事柄ハ眞正ノ證據ト看做スハ普通ノ條理ナリトス然ニ原裁判所ノ判明茲ニ出サリシハ探證ヲ誤リタル不法ノ裁判ト思考ス

辯明

上告者カ本訴訟地ヲ質地ナリトシ其證トスル甲第一號證ハ同村(輕井澤)小川字兵衛ニ差入タル田地年期賣渡證ニシテ被告方ニ宛テタルモノニ非ス且自己ノ控書ナレハ之ヲ以テ本訴訟地ヲ質地ナリトスルヲ得ス其舊第二號證ハ天保五年ノ高帳中論地ノ部ニ田代村文右衛門分成ル十ヶ年季ナリトアルヲ戸長等カ證明セシモノナリ右十ヶ年季ナリトノ文字ニ付戸長代理石川源藏カ原裁判所ニ於テ爲シタル口供第二項ニ(上)何レモ皆誰分入ル誰分成ルトアリテ五左衛門(上告者)ノ處ニ限リ誰分成ル以下ニ十ヶ年季ナリト有之

候)トアリ又其第三項ニ(被告文右衛門(被上告者)ノ父)先代文五郎名前ノ處ニ本訴訟地ハ明治五申年二月輕井澤又市分入ルトアリテ年季ノ儀ハ記載無御座候)トアリ然レハ右源藏ハ戸長代理ノ資格ヲ以テ曩ニ甲第二號證ニ保證セシ時ト公廷ニ於テ申立タルモノトハ其意義ニ様ナルヲ以テ信ヲ措キ難シトス且ツ右十ヶ年季ナリトアル文字ハ原裁判所カ其墨色筆勢ノ異ナルヲ以テ同時ノ記載ト見認サルモノナレハ其同時ノ記載タル確證ヲ舉ルニ非サレハ之レ亦質地ノ證ト論スルヲ得ス又舊名主等カ論地ハ年季賣渡地ナリト云モ右ハ口頭ノ陳述ニ過サルモノニシテ別ニ憑據セシ證左アルニアラス又該地方ハ質地取主ニ於テ地券ヲ受ルノ慣例ナルニ依リ被告カ地券ヲ受タルハ質地ノ證ナリト申立レテ該地方ノ人民カ地券ヲ受ルハ質地ニ限ルト云譯無キハ勿論各自所有ノ地所ニ對シ之ヲ受クルハ當然ナレハ之ヲ以テ質地ノ證ト云テ得ス左スレハ原裁判所カ他ニ質地タル證左アラサル限リハ該帳簿ノミニ據リ質地ナリト云フヲ得スト申渡セシハ相當ノ裁判ナリトス但上告第一條第二項以下終末ニ至ル迄數多ノ論述アルモ原裁判所ニ於テ申立サル事柄或ハ重複ニ渉ルモノ等ナルヲ以テ別ニ辯明セス

判決

右ノ筋合ナルヲ以テ明治十五年六月十二日靜岡始審裁判所カ本件質地受戻ノ訴ニ對シ與ヘ終審裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス但シ上告入費ハ上告人ヨリ辯納スヘシ
第五百五十號

○裁判執行催促上告ノ判文

(明治十五年六月廿三日上告
全十五年十二月二十日申渡)

五〇

長崎縣肥前國西彼杵郡戸町村平
民

上告人

山口 由 平

東京府京橋區銀座一丁目二十一

番地寄留大分縣士族

右代言人

元 田 肇

同縣同國長崎區引池町二十七番

戸平民

被告上告人

安 中 八 郎 平

本案當初起訴ヨリ上告ニ到ル迄ノ手續左ノ如シ

- 第一 被告上告人ヨリ始審廳へ買受地所名前換ノ起訴及ヒシ處明治八年第百六號公布ニ背戻セル旨ヲ以テ訴狀却下セラレタルニ依リ更ニ右地所代金催促ノ起訴爲シタル處是レ亦出訴期限規則ニ抵觸スル旨ヲ以テ却下セラレ右兩度ノ裁判確定セリ
- 第二 前文ノ判決ニ依リ上告人ヨリ始審廳へ右地所取戻シノ起訴及ヒシ處田地取戻シノ權利ナク被告上告答辯ノ請求ニ應シ其名前書換ノ手數ヲ盡スヘキ旨裁判ヲ受ケ此裁判モ亦確定セリ
- 第三 前文ノ判決ニ依リ被告上告人ヨリ始審廳へ裁判執行ヲ願ヒ出タル處原裁判ノ通り速

カニ執行可致旨命令ヲ受タリ然ルニ上告人ハ此命令ヲ不當トシ控訴ニ及ヒタル處本件ノ裁判確定セシ上ハ執行ノ言渡シニ對シ控訴ノ趣旨相立カタキ旨命令ヲ受第二裁判ニ對スル執行ノ命令確定セリ

第四 被告上告人ハ尙又始審廳へ右裁判執行催促ノ起訴及ヒシ處第一ノ裁判確定セシ上ハ

第二ノ裁判ニ對スル執行ヲ求ムル權利ナキ旨裁判ヲ受タリ

第五 被告上告人ハ右裁判ヲ不當トシ控訴及ヒタル處第三ノ命令ニ基キ上告人ニ於テ地所

名前書換ノ手數ヲ盡スヘキ旨裁判ヲ受終ニ上告ニ及ヒシナリ

上告ノ要旨左ノ如シ

第一條 抑本件賣買ノ如キハ裁判上既ニ無効ニ歸シ被告上告者ニ於テ上告者ニ對シ名前書換シムル權利ナキ者ト確定シタル而已ナラス當時被告上告者ハ之ニ甘諾シテ代金取戻シノ要求ニ及ヒタル者ナレハ上告者ニ於テ論地ノ名前書換ヲナスヘキ義務ナキヲ業已ニ十二分ニ確定セシモノナリ故ニ假令ヒ誤テ第三(手續)裁判ニ於テ之ニ反スル裁定アリシ迎此裁判ノ有効トナルヘキ道理ナク又實際ニ於テモ之カ執行ヲ爲シ得ヘカラサルトノ事

第二條 上告者カ第三(手續)裁判ニ對シ控訴セサリシハ當時重病ニ罹リ其期限ヲ經過シタルモノナレハ之ヲ甘諾セシモノト云ヘカラス加之元來該裁判ハ既ニ法律上確定シタル處ノヲ翻異スルモノナレハ到底無効ノ裁判ナリ既ニ無効ノ裁判ナル上ハ上告者ハ控訴スルニ及ハサルナリ又既ニ確定シタル先ノ裁判ヲ撲滅スル効力ナシトノ事

第三條 該裁判ニ於テ名前書換ナスヘシト命令セラレタル論地ノ中字小路田地二斗二升
時ナル一筆ハ元來當上告者ヨリ賣渡タル者ニアラスノ他人ノ所有スル處ナレハ
判所書類中始審返 上告者ニ於テ之カ名前換チナスコ能ハサルハ萬々ナリ然ハ該裁判
答書寫シニアリ 何レノ點ヨリ論スルモ到底不當ノ裁判ナリトノ事

辯明

第一條

上告第一二條ノ要旨ハ當初ノ裁判確定セシ上ハ第二ノ裁判確定スルモ其効ナシト云ニ在
リ凡民事ノ裁判ハ之ヲ遵奉スルト否トハ直者ノ隨意ニ放任スルモノナレハ若直者ニ於テ
自ラ之ヲ放棄セハ裁判ノ効力消滅スヘキハ論ヲ竣タサルナリ今ヤ上告人ハ第二(手續書)
ノ裁判ニ於テ曲者トナリ當時控訴覆審ヲ求メサルヲ以テ看レハ第一(手續書)ノ裁判ニ依
テ得タル處ノ權利ヲ放棄シ第二(手續書)ノ裁判ニ承服シタルモノト看做サハルヲ得ス故
ニ原裁判ハ不法ノ裁判ニアラストス

第二條

論所ノ内字小路田地一筆ハ元來上告人ノ所有地ニアラサレハ實際ニ於テモ執行シカタキ
旨申立レヒ上告人カ原裁判所ノ答辯書中此事ニ付陳述シタルコトナシ原裁判所ヘ陳述セサ
ルコトヲ以テ破毀ヲ求ル原因トナスヲ得ス

判決

前條々ノ筋合ナルヲ以テ長崎控訴裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノトス

第五百五十一號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文

(明治十四年十月十二日上告
十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

大原 廣 右衛門

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

大 原 信 次

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古
來貢租諸掛チ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ
爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ
負擔スルハ當然ノ道理ナルコトハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキコトニ非ス」ト判シ又「其實
小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ竣サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不

當トナル所以ナリトノ事

五四

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス態ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所ハ此最モ賄易キ法理且損害ノ否至スルモノアルニモ拘ハラズ被上告者カ「該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ出ルト契約ニ成ルトヲ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルキハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄然沮止セラル、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ擧グニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スノ契約ヲ結ヒタルナリト判示シタルニ該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラズ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増納スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永シ其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ孰レカ其之上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如

五五

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言テ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直ニ納メ來リシコトハ其原由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ヲシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナルハ貢租ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢租ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限りタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキヲ原裁判所カ前記ノ理由ノミチ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘシ而シテ上告第三號證ニ貢租ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢租ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢租即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セザレハナリ其他上告者ニ於テ申立ツル所アルモ本訴ノ要點ニ非サルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ
 貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス
 但シ上告ニ係ハル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘ

○貢租諸掛妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告) 全 十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

濱 田 富 太 郎

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

星 亭

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

河 谷 彦 次

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

永 井 尙 潔

上告人

右代言人

被上告人

右代言人

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ
第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古
來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ
爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ
負擔スルハ當然ノ道理ナル」ト素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキ「ト判シ又「其實
小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ駁サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不

當トスル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此
貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上
告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得
サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ
之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固
ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノ
ニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所
ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラヌ被上告者カ「該地ノ貢租
諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ
於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不
當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上
納ヲ廢スルモ上告者ノ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利
ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ
出ルト契約ニ成ルトトテ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルキハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄
然止セラル、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其阻止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ
然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之レヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ゲ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スノ契約ヲ結ヒタルナリト判示シタルニ該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラズ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増額スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ孰レカ其之ヲ上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シテ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辯明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言テ俟サルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直ニ納メ來リシコトハ其原由ノ契約タルト習慣タルト論セズ上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ナシテ代納セシメタルニ過サルモノトス然レハ被上告者即地主ノ任意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付中立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限リ拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナレハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繋ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリト敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキテ原裁判所カ前記ノ理由ノミテ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘシ而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルヲ明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ル所アルモ本訴ノ要點ニ非ルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スヲ左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス

但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

第五百五十三號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

菊 谷 武 四 郎

東京府京橋區三十間堀二丁目五

番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

大 原 信 次

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ負擔スルハ當然ノ道理ナルヲハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキヲニ非ス」ト判シ又「其實小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ俟サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不當

トスル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラス被上告者カ「該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ出ルト契約ニ成ルトヲ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルルハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄然沮止セラル、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ゲ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損コシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スノ契約ヲ結タルナリト判示シタルニ該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラス是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フコアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増納スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ孰レカ其之上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトス

トノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言ヲ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシコトハ其理由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ヲシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルコヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナルハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然ハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限りタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタルトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキヲ原裁判所カ前記ノ理由ノミヲ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤タル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ル所アルモ本訴ノ要點ニ非ルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス

但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タル

ヘシ

第五百五十四號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告 十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

松 木 太 平

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

大 原 信 次

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ
第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古
來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ
爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ
負擔スルハ當然ノ道理ナル」ハ素ヨリ知者ヲ待テ知ヘキ「非ス」ト判シ又「其實小作
者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論テ埃サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不當ト

ナル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此
貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上
告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ
得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等
ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ
固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモ
ノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判
所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラヌ被上告者カ「該地ノ貢
租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告
ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ
不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且ツ雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ
上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑
權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣
習ニ出ルト契約ニ成ルトヲ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルルハ謂レナク或事項ノ強行
ヲ俄然沮止セラル、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキ
ナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告

者及其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即
 中損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得シヤ啻ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス
 實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ンニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ
 上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時
 ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等
 裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限りニ拂出スノ
 契約ヲ結ヒタルナリト判示シタレト該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十
 一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラズ是迄通り官司
 ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限り被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フ
 ヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増額スル
 モ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享
 シルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スル
 ト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原告告ノ孰レカ其之上納スルヤハ大ナ
 ル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス
 大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚
 シトストノ事

被上告者ハ上告者ト不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如

辨明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スル
 モノヲ收納スルヲハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキト言
 ナ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ
 納メ來リシトハ其原由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニ
 アラス異竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人チ
 シテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自
 カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢
 租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被
 告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシ
 ハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ
 該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナ
 レハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限
 拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月
 以後ニ貢米ヲ拂出セシトアリトモ畢章契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處
 十一月ヲ限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリトテ敢テ以テ上告者ノ義
 務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第
 三號證ノ如上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキナ原裁判所カ前記ノ理由ノミチ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルヲ明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ツル所アルモ本訴ノ要點ニ非サルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スヲ左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス
但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

第五百五十五號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
全十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

濱 田 升 治

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

大 原 信 次

東京府麹町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ負擔スルハ當然ノ道理ナルヲハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキヲニ非ス」ト判シ又「其實小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ竣サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不

當トスル所以ナリトノ事

七四

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス態ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所ハ此最モ賄易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラス被上告者カ「該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ出ルト契約ニ成ルトナ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄然沮止セラル、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ管ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ンニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スル契約ヲ結ヒタルナリト判示シタルニ該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラス是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増納スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ就レカ其之ヲ上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如

七五

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言ヲ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直ニ納メ來リシコトハ其理由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ヲシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ任意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナルハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限りタルコト相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキヲ原裁判所カ前記ノ理由ノミヲ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク判決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ツル所アルモ本訴ノ要點ニ非サルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス

但シ上告ニ係ハル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘ

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告) 全 十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

田 内 才 次

東京府京橋區三十間堀三丁目五番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

被上告人

高知縣土佐國香美郡前濱村平民 竹 村 岩 次

東京府麴町區永田町二丁目六十 三番地寄留茨城縣士族 永 井 尚 潔

右代言人

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ
第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ負擔スルハ當然ノ道理ナルトハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキコト非ス」ト判シ又「其實小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ俟サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不

當トスル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラヌ被上告者カ「該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ出ルト契約ニ成ルトチ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルニハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄然沮止セラル、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之レヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉グニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ每年十一月限リニ拂出スノ契約ヲ結ヒタルナリト判示シタレト該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラズ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増額スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原告被告ノ孰レカ其之ヲ上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所ナリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護セタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辯明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言テ俟サルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシコトハ其原由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人チシテ代納セシメタルニ過サルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等チ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限リ拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナレハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシメアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキナ原裁判所カ前記ノ理由ノミテ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ル所アルモ本訴ノ要點ニ非ルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス
但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

第五百五十七號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
全十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

竹 村 丑 藏

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

松 木 丑 太郎

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ負擔スルハ當然ノ道理ナルコトハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキコトニ非ス」ト判シ又「其實小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論テ誤サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不當

トスル所以ナリトノ事

八四

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ否至スルモノアルニモ拘ハラズ被上告者カ「該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ出ルト契約ニ成ルトヲ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄然沮止セラレ、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ啻ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉グニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スル契約ヲ結タルナリト判示シタレハ該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラズ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増納スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ孰レカ其之ヲ上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルコト左ノ如

八五

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言ヲ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシコトハ其理由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ヲシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限リ拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナルハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然ハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノコト雙方ノ約スル處十一月限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキヲ原裁判所カ前記ノ理由ノミヲ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤タル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ル所アルモ本訴ノ要點ニ非ルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス

但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告 全 十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

河 谷 彦 兵 衛

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

野 村 伊 太 郎

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

永 井 尙 潔

上告人

右代言人

被上告人

右代言人

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ
第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而ノ上告者カ古
來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ
爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ
負擔スルハ當然ノ道理ナル」ハ素ヨリ知者ヲ待テ知ヘキ「非ス」ト判シ又「其實小作
者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ竣サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不當ト

スル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此
貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上
告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス態ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ
得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等
ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限リハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ
固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモ
ノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判
所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラヌ被上告者カ「該地ノ貢
租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告
ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ
不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且ツ雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ
上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑
權利ナル者ハ一人若シハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而ノ其慣
習ニ出ルト契約ニ成ルトヲ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルキハ謂レナク或事項ノ強行
ヲ俄然沮止セラル、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキ
ナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告

者及其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ンニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限りニ拂出スノ契約ヲ結ヒタルナリト判示シタレト該第三號證ノ貢租ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラス是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限り被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増額スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原告被告ノ孰レオ其之ヲ上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所ナリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辨護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辨明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコトヲ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシコトハ其理由ノ契約タルト習慣タルト論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス異竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人チシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カテ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルニ當然ナリトス如何トナレハ貢租ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢租ヲ拂出セシコトアリトモ畢章契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月ヲ限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリト敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキヲ原裁判所カ前記ノ理由ノミヲ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如シ裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ツル所アルモ本訴ノ要點ニ非サルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス
但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

第五百五十九號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告 十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

內 田 才 次

東京府京橋區三十間堀三丁目五番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

大 原 信 次

東京府麴町區永田町二丁目六十番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ負擔スルハ當然ノ道理ナルコトハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキコトニ非ス」ト判シ又「其實小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ竣サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不

當トスル所以ナリトノ事

九四

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス態ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラス被上告者カ「該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ出ルト契約ニ成ルトナ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルルハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄然沮止セラレハ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ擧グニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スル契約ヲ結ヒタルナリト判示シタレハ該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラズ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルコト遭ヘハ固ヨリ増額スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルコトヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ就レカ其之上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所ナリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルコト左ノ如

九五

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言テ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直ニ納メ來リシコトハ其原由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ヲシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ任意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナルハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限りタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタルトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキヲ原裁判所カ前記ノ理由ノミチ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ツル所アルモ本訴ノ要點ニ非サルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス

但シ上告ニ係ハル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

第五百六十號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告) 全十五年十二月廿一日申渡

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

菊 谷 彦 兵 衛

上告人

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

竹 村 岩 次

被上告人

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

永 井 尙 潔

右代言人

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ナ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ
第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而ノ上告者カ古

來貢租諸掛チ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ
爲メ代納シタルコアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ
負擔スルハ當然ノ道理ナル」ハ素ヨリ知者チ待テ知ルヘキ「非ス」ト判シ又「其實
小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論チ竣サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不

當トスル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛チ上納スルハ被上告者ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此
貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上
告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否チ問ス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約チ廢スルチ得
サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ
之チ招誘シタルニアラサル限リハ唯再度ノ合意同心ノ之チ解除スルチ得ルアルノ固
ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何チ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノ
コアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所
ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラヌ被上告者カ「該地ノ貢租
諸掛ノ代納チ廢シ自ラ之チ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ
於テ云々敢テ之チ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不
當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上
納チ廢スルモ上告者ノ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利
ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項チ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ
出ルト契約ニ成ルトチ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルハ謂レナク或事項ノ強行チ俄
然沮止セラレ、ニ至レハ他ノ損害チ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ
然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛チ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之レヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ゲ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ每年十一月限リニ拂出スル契約ヲ結ヒタルナリト判示シタルニ該第三號證ノ貢租ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラズ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増額スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第二貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原告被告ノ孰レカ其之ヲ上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所ナリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辯明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルヲハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言テ俟サルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシヲハ其原由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人チシテ代納セシメタルニ過サルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限リ拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナレハ貢租ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢租ヲ拂出セシマアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリト敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキナ原裁判所カ前記ノ理由ノミテ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘシ而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ル所アルモ本訴ノ要點ニ非ルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲ス左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス

但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

第五百六十一號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

大 原 爲 平

東京府京橋區三十間堀三丁目五
番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

被上告人

野 村 左 源 次

東京府麴町區永田町二丁目六十
三番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ負擔スルハ當然ノ道理ナルヲハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキコト非ス」ト判シ又「其實小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論テ誤サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不當

トスル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラス被上告者カ「該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告^{被上}告者」カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ出ルト契約ニ成ルトヲ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルキハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄然沮止セラレ、ニ至レハ他ノ損害ヲ須ダス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ擧ゲ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限りニ拂出スノ契約ヲ結タルナリト判示シタレハ該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラス是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限り被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増納スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ孰レカ其之上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如

辯明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言テ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシコトハ其理由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ヲシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)即地主カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナルハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限りタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタルコトヲ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキナ原裁判所カ前記ノ理由ノミチ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤タル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ル所アルモ本訴ノ要點ニ非ルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス

但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
全十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

大 原 延 治

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

大 原 信 次

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

永 井 尙 潔

上告人

右代言人

被上告人

右代言人

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而ソ上告者カ古
來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ
爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ
負擔スルハ當然ノ道理ナル」ハ素ヨリ知者ヲ待テ知ヘキ「非ス」ト判シ又「其實小作
者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ竣サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不當ト

スル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告者ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此
貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上
告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ
得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等
ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限リハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ
固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモ
ノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判
所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラヌ被上告者カ「該地ノ貢
租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告
ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ
不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且ツ雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ
上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑
權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而ソ其慣
習ニ出ルト契約ニ成ルトヲ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルキハ謂レナク或事項ノ強行
ヲ俄然沮止セラレハ、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキ
ナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告

者及其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即
 ナ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス
 實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ンニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ
 上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ヶ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時
 ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等
 裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限りニ拂出ス
 契約ヲ結ヒタルナリト判示シタレト該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十
 一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラズ是迄通り官司
 ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限り被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フ
 ヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増額スル
 モ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享
 クルコトヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スル
 ト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原告告ノ孰レカ其之上納スルヤハ大ナ
 ル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス
 大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルチモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚
 シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辨護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルコト左ノ如

辨明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スル
 モノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言
 ナ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ
 納メ來リシコトハ其原由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニ
 アラス異竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人チ
 シテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ任意ヲ以テ之ヲ解キ自
 カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢
 租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被
 告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等チ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシ
 ハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ
 該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルチ當然ナリトス如何トナ
 レハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限
 拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月
 以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢章契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處
 十一月ヲ限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリトテ敢テ以テ上告者ノ義
 務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第
 三號證ノ如上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキヲ原裁判所カ前記ノ理由ノミチ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納チ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルヲ明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ツル所アルモ本訴ノ要點ニ非サルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スヲ左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス
但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

第五百六十三號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

菊 谷 熊 彌

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

大 原 信 次

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古來貢租諸掛チ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ爲メ代納シタルコアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ負擔スルハ當然ノ道理ナル」トハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキコト非ス」ト判シ又「其實小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ候サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不

當トスル所以ナリトノ事

一一四

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラス被上告者カ「該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ出ルト契約ニ成ルトヲ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルキハ謂レナシ或事項ノ強行ヲ俄然沮止セラレ、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉グニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ヶ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スル契約ヲ結ヒタルナリト判示シタルニ該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラス是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増納スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ就レカ其之上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

一一五

辯明

上告人ニ於テ前コ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルコ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキ言ヲ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直ニ納メ來リシコハ其理由ノ契約タルト習慣タルト論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ナシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナルハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スコ繋ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限りタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキヲ原裁判所カ前記ノ理由ノミヲ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコ明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ツル所アルモ本訴ノ要點ニ非サルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコ左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス

但シ上告ニ係ハル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告) 全十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

効 谷 作 藏

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

大 原 信 次

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古
來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ
爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ
負擔スルハ當然ノ道理ナルヲハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキヲニ非ス」ト判シ又「其實
小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ竣サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不

當トスル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此
貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上
告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得
サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ
之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固
ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノ
ニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所
ハ此最モ略易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラス被上告者カ「該地ノ貢租
諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ
於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラカルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不
當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上
納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利
ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ
出ルト契約ニ成ルトト問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルルキハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄
然沮止セラルヘキ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ
然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之レヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ音ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ンコ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スノ契約ヲ結ヒタルナリト判示シタルニ該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラズ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増額スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永シ其惠ヲ享クルコト得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ孰レカ其之上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルコト左ノ如シ

辯明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言ヲ俟サルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシコトハ其原由ノ契約タルト習慣タルト論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人チシテ代納セシメタルニ過サルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルコヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ナク實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限リ拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルチ當然ナリトス如何トナレハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキテ原裁判所カ前記ノ理由ノミチ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルヲ明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ル所アルモ本訴ノ要點ニ非ルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スヲ左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス
但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

第五百六十五號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

大 原 弘 藏

東京府京橋區三十間堀三丁目五番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

大 原 信 次

東京府麴町區永田町二丁目六十番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ負擔スルハ當然ノ道理ナルヲハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキヲ」ト判シ又「其實小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ竣サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不當

トスル所以ナリトノ事

二二四

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラヌ被上告者カ「該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ出ルト契約ニ成ルトヲ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルキハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄然沮止セラレハ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ゲ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スル契約ヲ結タルナリト判示シタレハ該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラヌ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フコアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増納スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永シ其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ孰レカ其之上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルト左ノ如

二二五

辯明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言テ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシコトハ其理由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラヌ畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ヲシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)即地主(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナルハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然ハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限りタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタルコトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキヲ原裁判所カ前記ノ理由ノミヲ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤タル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ル所アルモ本訴ノ要點ニ非ルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス

但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

大原 廣 右衛門

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

野 村 左 源 次

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

永 井 尙 潔

右代言人

被上告人

右代言人

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ
第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而ソ上告者カ古
來貢租諸掛チ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ
爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ
負擔スルハ當然ノ道理ナルコトハ素ヨリ知者ヲ待テ知ヘキコトニ非ス」ト判シ又「其實小作
者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論チ竣サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不當ト

スル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛チ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此
貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上
告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約チ廢スルチ
得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等
ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルチ得ルアルノミ
固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモ
ノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判
所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルコトモ拘ハラス被上告者カ「該地ノ貢
租諸掛ノ代納チ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告
ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ
不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且ツ雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ
上納チ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑
權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項チ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而ソ其慣
習ニ出ルト契約ニ成ルトチ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルキハ謂レナク或事項ノ強行
チ俄然沮止セラレ、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキ
ナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛チ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告

者及其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ンニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限りニ拂出スノ契約ヲ結ヒタルナリト判示シタレト該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラズ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限り被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増額スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享シルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ孰レオ其之ヲ上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辨護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辨明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルヲハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言テ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシコトハ其理由ノ契約タルト習慣タルト論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス異竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ヲシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ任意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナレハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢章契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月ヲ限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキテ原裁判所カ前記ノ理由ノミチ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納チ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之テ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルヲ明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ツル所アルモ本訴ノ要點ニ非サルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スノ左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルコ止マルモノトス
但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

第五百六十七號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文 (明治十四年十月十二日上告 十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

濱 田 喜 代 平

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

大 原 信 次

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ負擔スルハ當然ノ道理ナルヲハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキコト非ス」ト判シ又「其實小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ俟サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不

當トスル所以ナリトノ事

一三四

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラズ被上告者カ「該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ出ルト契約ニ成ルトナリト問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルキハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄然沮止セラレ、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ擧ンニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スノ契約ヲ結ヒタルナリト判示シタルレ該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラズ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増納スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ就レカ其之ヲ上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其土納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決セラレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

一三五

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言テ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直ニ納メ來リシコトハ其原由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ヲシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナルハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限りタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキナ原裁判所カ前記ノ理由ノミヲ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク判決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ツル所アルモ本訴ノ要點ニ非サルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルコト止マルモノトス
但シ上告ニ係ハル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
全 十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人 荻 谷 運 平

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

右代言人 星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人 大 原 信 次

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

右代言人 永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ
第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古
來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ
爲メ代納シタルニアラサルナリ然レニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ
負擔スルハ當然ノ道理ナル」ハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキ「ト判シ又「其實
小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ俟サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不

當トスル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告者ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此
貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上
告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ス此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得
サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ
之ヲ招誘シタルニアラサル限リハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固
ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノ
ニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所
ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ皆至スルモノアルコトモ拘ハラス被上告者カ「該地ノ貢租
諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ
於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不
當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上
納ヲ廢スルモ上告者ノ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利
ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ
出ルト契約ニ成ルトチ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄
然沮止セラル、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ
然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之レヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ンニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノタリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ每年十一月限りニ拂出スノ契約ヲ結ヒタルナリト判示シタレト該第三號證ノ貢租ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラス是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限り被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増額スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享シルコト得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ孰レカ其之上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルチモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルコト左ノ如シ

辯明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言ヲ俟サルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシコトハ其原由ノ契約タルト習慣タルト論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人チシテ代納セシメタルニ過サルモノト以然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルコヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等チ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルチ當然ナリトス如何トナレハ貢租ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月チ限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキテ原裁判所カ前記ノ理由ノミチ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルヲ明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ル所アルモ本訴ノ要點ニ非ルノミチナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スヲ左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス
但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

第五百六十九號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

濱 田 久 仁 次

東京府京橋區三十間堀三丁目五
番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

大 原 信 次

東京府麴町區永田町二丁目六十
三番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ負擔スルハ當然ノ道理ナルヲハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキヲニ非ス」ト判シ又「其實小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ竣サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不當

トスル所以ナリトノ事

一四四

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此貢租諸掛ノ上納ハ原被告双方ノ同意承諾ニ出タモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ否至スルモノアルニモ拘ハラズ被告上告者カ「該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被告)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ出ルト契約ニ成ルトヲ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルキハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄然沮止セラル、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ然ハ則チ被告上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被告上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フマ得ヤ齊ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリト今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ゲ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スルノ契約ヲ結タルナリト判示シタレハ該第三號證ノ貢租ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハテス是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被告上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増納スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルコトヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ孰レカ其之ヲ上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所ナリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルコト左ノ如

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言テ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシコトハ其理由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ヲシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナルハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然ハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月限りタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリトテ敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキヲ原裁判所カ前記ノ理由ノミヲ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤タル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ル所アルモ本訴ノ要點ニ非ルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘ

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス

但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タル

第五百七十號

二四八

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
全十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

田内 儀右衛門

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

竹 村 岩 次

東京府麴町區永田町二丁目六十

三番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ
第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古

來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ
爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ
負擔スルハ當然ノ道理ナル」ハ素ヨリ知者ヲ待テ知ヘキ「非ス」ト判シ又「其實小作
者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論テ誤サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不當ト

ナル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告者ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此
貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上
告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス態ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ
得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等
ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限リハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ
固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモ
ノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判
所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ否至スルモノアルコトモ拘ハラヌ被上告者カ「該地ノ貢
租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告
ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ
不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且ツ雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ
上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑
權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣
習ニ出ルト契約ニ成ルトチ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルハ謂レナク或事項ノ強行
チ俄然沮止セラル、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タヌ其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキ
ナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告

者及其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ當ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ンニ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スノ契約ヲ結ヒタルナリト判示シタレト該第三號證ノ貢租ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラヌ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増額スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原告告ノ孰レカ其之上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所タリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辨護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

辨明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルヲハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキト言テ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシトハ其原由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアラス異竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人チシテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限リ拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナレハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繋ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシトアリトモ畢章契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月ヲ限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリト敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキナ原裁判所カ前記ノ理由ノミチ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ツル所アルモ本訴ノ要點ニ非サルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス

但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

第五百七十一號

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
全十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

上告人

松 木 久 吉

東京府京橋區三十間堀三丁目五番地出張東京府平民

右代言人

星 亨

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

被上告人

松 木 丑 太郎

東京府麴町區永田町二丁目六十
三番地寄留茨城縣士族

右代言人

永 井 尙 潔

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ

第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ爲メ代納シタルコアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ負擔スルハ當然ノ道理ナルコトハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキコトニ非ス」ト判シ又「其實小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ竣サルナリ」ト決セラレタリ是レ上告者カ不

當トスル所以ナリトノ事

一五四

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ハス態ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ之ヲ招誘シタルニアラサル限りハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所ハ此最モ賭易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルニモ拘ハラヌ被上告者カ「該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ出ルト契約ニ成ルトナリトハ法理上ノ眼ヨリシテ見ルハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄然沮止セラレ、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之ヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ啻ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ゲ第一貢租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限リニ拂出スル契約ヲ結ヒタルナリト判示シタルニ該第三號證ノ貢米ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラヌ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限リ被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増額スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第三貢租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ就レカ其之ヲ上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所ナリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルヲモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルヲ左ノ如シ

一五五

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言テ俟タサルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直ニ納メ來リシコトハ其理由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニテテ代納セシメタルニ過キサルモノトス然レハ被上告者即地主ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人ヲシテ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ヲ口實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルヲ當然ナリトス如何トナルハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繫ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以一月ヲ限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告者ノ義務號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキヲ原裁判所カ前記ノ理由ノミヲ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原告カ爲シタル契約ヲ破ルノ道理ナカルヘシ而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收スル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ツル所アルモ本訴ノ要點ニ非サルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルコト止マルモノトス
但シ上告ニ係ハル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘシ

○貢租諸掛上納妨害上告ノ判文(明治十四年十月十二日上告
十五年十二月廿一日申渡)

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

大 原 直 次

上告人

東京府京橋區二十間堀三丁目五
番地出張東京府平民

星 亭

右代言人

高知縣土佐國香美郡前濱村平民

大 原 信 次

被上告人

東京府麹町區永田町二丁目六十
三番地寄留茨城縣士族

永 井 尚 潔

右代言人

貢租諸掛上納妨害一件大坂上等裁判所ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告スル要領左ノ如シ
第一 本訴所争ニ係ハル地所ハ盛扣地ニシテ上告者ハ即チ其盛扣者ナリ而シテ上告者カ古
來貢租諸掛ヲ官司ニ上納シタルハ即チ現占者ナル盛扣者ノ固有權利ニシテ被上告者ノ
爲メ代納シタルニアラサルナリ然ルニ大坂上等裁判所ハ漫然「貢租諸掛ハ地主ニ於テ
負擔スルハ當然ノ道理ナル」ハ素ヨリ知者ヲ待テ知ルヘキ「非ス」ト判シ又「其實
小作者ハ地主ノ代納者タルハ素ヨリ論ヲ換サルナリ」ト決セテレタリ是レ上告者カ不

當トスル所以ナリトノ事

第二 假ニ上告者カ貢租諸掛ヲ上納スルハ被上告者ノ爲メ代納スルモノトシテ論スルモ此
貢租諸掛ノ上納ハ原被雙方ノ同意承諾ニ出タルモノナレハ縱ヒ損害ナシトスルモ被上
告者一己ノ私便ニ任セ上告者ノ諾否ヲ問ス恣ニ此同意承諾ニ出タル契約ヲ廢スルヲ得
サルモノトス何トナレハ契約ナルモノハ合意同心ニ成ルモノニシテ其際詐欺誤謬等ノ
之ヲ招誘シタルニアラサル限リハ唯再度ノ合意同心ノ之ヲ解除スルヲ得ルアルノミ固
ヨリ其一方者ノ當面ナル便否ニ由リ他ノ諾否如何ヲ問ハスシテ解除シ得ラルヘキモノ
ニアラサレハナリ又況ヤ次ニ列記スル如キ損害アルニ於テオヤ然ルニ大坂上等裁判所
ハ此最モ諸易キ法理且損害ノ沓至スルモノアルコモ拘ハラス被上告者カ「該地ノ貢租
諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告ニ
於テ云々敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリ」ト判決セラレタリ是レ上告者カ以テ不
當トスル所ナリトノ事

第三 大坂上等裁判所カ古來ノ慣習ニシテ且雙方ノ承諾ニ出タル上告者ノ貢租諸掛ノ上
納ヲ廢スルモ上告者ニ損害ナシト斷定サレタルハ實ニ不當ト云ハサルヘカラス抑權利
ナル者ハ一人若クハ數人カ他人ニ對シ或事項ヲ強行シ得ル能力ノ稱ナリ而シテ其慣習ニ
出ルト契約ニ成ルトチ問ハス法理上ノ眼ヨリシテ見ルハ謂レナク或事項ノ強行ヲ俄
然沮止セラル、ニ至レハ他ノ損害ヲ須タス其沮止即失權カ損害ト見做サレ得ヘキナリ
然ハ則チ被上告者カ要求スル如ク貢租諸掛ヲ上納シ得ルトナラハ上告者ハ被上告者及

其他人ニ對シ古來強行シ得タル所ノ能力ヲ奪ハル、者ナルヲ以テ其能力ノ亡失即チ損害ナリ豈ニ之レヲ損害ナシト云フヲ得ンヤ啻ニ斯ノ如キ普通ノ損害アルノミナラス實ニ特別ナル損害アリトス今爰ニ其尤ナルモノヲ舉ン第一頁租諸掛ハ一時ニ全額ヲ上納スルモノニアラス特ニ貢租ノ如キハ一ケ年三度ニ割合上納スルモノナリ蓋シ一時ニ全額ヲ皆納スルハ損ニシテ數度ニ分納スルハ利ナリ是其損害ナリトス但シ大坂上等裁判所ハ上告第三號證ノ文ヲ引來テ貢租ハ加治子米ト共ニ毎年十一月限りニ拂出スノ契約ヲ結ヒタルナリト判示シタレト該第三號證ノ貢租ノ儀者不及申加治子米ハ新曆十一月限拂出可申トアル文意タルヤ貢租ハ官司ノ命スル儘時限ニ拘ハラズ是迄通り官司ニ上納シ而シテ加治子米ハ十一月限り被上告者ニ拂フヘシト云フニアリ是亦不當ト云フヘキナリ其第二上告者カ古來貢租諸掛ヲ上納スルヤ増額スルニ遭ヘハ固ヨリ増額スルモ其減額スルヤ從テ減納ス如此ナレハ明治八年ノ如キ恩典アレハ上告者永ク其惠ヲ享クルコトヲ得ルモ上納權ヲ失スルニ至テハ則チ然ルヲ得サルナリ其第二頁租ヲ上納スルト否ヤトハ貴重ナル參政權ノ得否ニ關スレハ原被告ノ孰レカ其之ヲ上納スルヤハ大ナル影響ヲ生スル所ナリ然ルニ其上納權ヲ失スルニ至テハ是亦損害ト云ハサルヘカラス大坂上等裁判所ハ是等ノ推知シ易キ損害アルチモ亦ナシト判決サレタリ不當モ亦太甚シトストノ事

被上告者ハ上告ヲ不當トシ原裁判ヲ辯護シタリ依テ辯明及ヒ判決ヲ與フルコト左ノ如シ

辯明

上告人ニ於テ前ニ掲ケタル如ク申立ルニ依リ之ヲ審按スルニ地租及其他土地ニ賦課スルモノヲ收納スルコトハ其土地ヲ所有スル者即地券ニ記載セル姓名ノ者於テ負擔スヘキコト言ナ俟サルモノナリ故ニ本訴上告者即小作人ヨリ地租及土地ニ賦課スル諸費用ヲ直チニ納メ來リシコトハ其原由ノ契約タルト習慣タルトヲ論セス上告者即小作人カ固有ノ權利ニアルス畢竟被上告者即地主ノ便宜ヲ以テ自己ノ負擔スル所ノ義務即貢租諸掛ヲ小作人チシテ代納セシメタルニ過サルモノトス然レハ被上告者即地主ノ存意ヲ以テ之ヲ解キ自カラ負擔スルヲ得ヘキヤ明ケキモノナルニヨリ原裁判所於テ原告(被上告者)カ該地ノ貢租諸掛ノ代納ヲ廢シ自ラ之ヲ負擔スルハ原告(被上告者)カ勝手ニ爲シ得ヘキ筋ニシテ被告(上告者即小作人)ニ於テ慣例等ナク實トシテ敢テ之ヲ拒ムヘキ條理アラサルナリト言渡セシハ相當ノ判定ナリトス又上告者於テ上告第三號證ノ文詞解釋ノ儀ニ付申立ル條項アルモ該文言ハ貢租加治子米共十一月限り拂出スヘキ旨趣ニ解釋スルチ當然ナリトス如何トナレハ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂出ストアル不申及ノ文字タル十一月限拂出スニ繋ケテ續下スヘキハ文理上至當ノ事柄ナルヲ以テナリ然レハ實際ニ於テ十一月以後ニ貢米ヲ拂出セシコトアリトモ畢竟契約以外ノ事ヲ爲シタルモノニテ雙方ノ約スル處十一月ヲ限リタルニ相違ナキ以上ハ之ニ基ツキ判決ヲ爲シタリト敢テ以テ上告者ノ義務ヲ重劇ナラシメタリト云ヘキモノニアラス然リト雖モ本件租額ノ拂出ニ付テハ上告第三號證ノ如ク上告者ト被上告者トノ間ニ契約ヲ爲シタルモノナレハ地租減額ニ付テノ利益

ハ上告者ニ屬スヘキナ原裁判所カ前記ノ理由ノミチ根據トシ地主即被上告者ニ屬スルモ
ノ、如ク裁決シタルハ法理ト證書ノ解釋トヲ誤リタル不法ノ裁判ナリトス如何トナレハ
地主ハ貢租ノ上納ヲ自カラ負擔スルヲ得ヘシト雖モ之ヲ以テ原被告カ爲シタル契約ヲ破
ルノ道理ナカルヘク而シテ上告第三號證ニ貢米ノ儀ハ不申及加治子米ハ新曆十一月限拂
出ス云々トアリテ其貢米ト加治子米トヲ特ニ明記シタル上ハ貢米即地租ハ政府ノ徵收ス
ル多寡ニ從ヒ上告者ニ於テ之ヲ被上告者ヨリ取立之ヲ政府ニ納完シ被上告者ノ利益ハ則
上告者ヨリ得ル加治子米ニ止マルコト明瞭ナルヲ以テ被上告者即地主於テハ豫定ノ加治子
米ヲ受取ノ外更ニ多量ノ米額ヲ要ムヘキ權利ヲ有セサレハナリ其他上告者ニ於テ申立ル
所アルモ本訴ノ要點ニ非ルノミナラス前辯明ニ由テ理會シ得ヘキヲ以テ一々辯明ヲ與
ヘス

判決

右辯明ノ如キナルヲ以テ大坂上等裁判所ノ裁判ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ裁判ヲ爲スコト左ノ
如シ

貢租諸掛ノ上納ハ地主即被上告人ニ於テ自カラ負擔スルヲ得ヘキヲ以テ小作人即上告人
ニ於テ其要求ヲ拒ムヲ得サルモノトス而シテ上告者ト被上告者トノ間ニハ豫定ノ加治子
米ト當然收納スヘキ貢租諸掛ノ額ヲ授受スルニ止マルモノトス
但上告ニ係ル入費ハ被上告人ニ於テ償却シ其他ノ訴訟入費ハ兩造各自費タルヘ
シ

第五百七十三號

○田畑違約上告ノ判文(明治十五年四月十七日上告
全十五年十二月廿一日申渡)

新潟縣越後國中蒲原郡平方新田

平民

請願人

藤 宮 三 九 郎

東京府京橋區西紺屋町九番地

右代言人

林 和 一

新潟縣越後國北蒲原郡保田町平

民

答辯人

齋 藤 彌 惣 兵 衛

東京府芝區南佐久間町二丁目十

五番地

右代言人

田 村 訥

田畑違約一件東京上等裁判所ノ裁判取消ヲ要ムル主點左ノ如シ
右田畑違約一件訴答ノ概趣タル當時ノ原告(即答)ハ論地ヲ買得セシト云ヒ被告(即請)
ハ抵當ニ相渡タリトノ爭ナリシ處東京上等裁判所ニ於テハ之ヲ賣買ナリト判決サレ請願
人ハ敗訴セリ(上告亦)然ル處其後答辯人ハ新潟縣新津警察署ニ於テ該田地ハ其實抵當ニ
取リタルモノナル旨番外第一號證ノ通り自白セリ此自白ニ依レハ曩ニ東京上等裁判所對

審ノ際答辯人ハ眞實ノ申立ヲナサ、リシヲ判然ナラ其不眞實ノ申立ニ依リ確定シタル裁判ハ取消シアラソトナシ

但右番外第一號ノ成立タル手續ハ請願人第四號五號六號ニ詳カナルヲ以テ参照アラソトナシ

又明治十五年十二月七日差出セシ上申書参照アラソトナシトノ事

答辯人カ右取消願ニ對シ答ル主點左ノ如シ

請願人カ原裁判取消願ノ資料トスル番外第一號證即チ答辯人カ新津警察署ニ於テナシタル口供ハ警吏ノ壓制ニ依リシモノニシテ決テ眞實ノ口供ニ非ス良シ眞實ノ口供ナリト假定スルモ尙論地賣戻シ期限中ノ思想ヲ申立タル迄ノモノニシテ期限後ノ思想ヲ申立タルニ非ス旁以テ其口供中抵當ニ取タルモノトアルモ曩キノ確定裁判ヲ取消スノ材料トナスヘキニ非ス依テ取消無之様請願ス

但シ請願人カ番外第一號證ノ成立タル手續トシテ差出ス證據物ノ内第五號佐平次カ自首タルヤ答辯人第一號論地賣買證ノ通り實際賣買ヲ遂ケタルモノナレハ其事實ト反スル自首ハ全ク請願人ト自首人(即佐平次)トノ馴合ニ出テタルヲ判然ナリ其他四號六號ノ如キハ右五號ニ付添スルモノニシテ緊要ノモノト思考セサルヲ以テ答辯セス

右主點ト答辯書并明治十五年十二月七日差出セシ辯解書参照アラソトナシトノ事

判決

本件請願人カ原裁判取消願ノ資料トスル番外第一號證(答辯人カ新潟新津警察署ニテ爲シタル口供)ヲ閱スル

ニ(表面地所ヲ買取タルモ其實ハ抵當ニ過キサルモノナレハ貢租郡費ノ如キモ此方ニ關係セズ支配人ノ納ムル處ト成テモ是亦其實三九郎ノ納ムルモノナレハ云々)又(元來該地取組ノ精神ハ其違約ヲ恐ル、ニ出テタルモノニテ眞ニ永世三九郎ニ於テ渡シタルモノトハ不忠詰リ抵當ニ過キサルモノ也)トアリ然ルニ答辯人ニ於テ右口供ハ警察官ノ壓制ニ成立テ眞實ノ口供ニ非サル旨申立ルモ其壓制ヲ受タル證據ノ見ルヘキモノナシ又良シ眞實ノ口供トスルモ論地賣戻期限中ノ思想ヲ申立タル迄ニテ期限後ノ思想ヲ申立タルニ非スト云モ右口供タル斯ク期限ノ内外ヲ區別シテ申立タルモノト認ムヘキ廉アルヲナシ然レハ右番外第一號證即チ口供ハ答辯人カ本案論地ノ其實抵當地ナルヲ自認セシモノト做サ、ルヲ得ズ左スレハ答辯人カ曩キノ原裁判所ニ於テ本按論地ヲ買得地ナリト云ヒ且ツ之ヲ證明シタルハ事實ヲ蔽飾シタルモノト認ムルノ外ナシ而シテ原裁判所ノ裁判ハ當時其事實ヲ蔽飾シタル申立ニ依リ與ヘタル裁判ナレハ其効力ナキモノトス

第五百七十四號

○共有齋網規定違變上告ノ判文(明治十五年一月廿七日上告) 全 十五年十二月廿一日申渡

静岡縣駿河國駿東郡沼津驛下河

原町百十九番地平民平田治郎

上告人

田代久米治

外九名代官人
東京府深川區佐賀町一丁目十八番地平民

靜岡縣駿河國駿東郡沼津驛下河原町五十五番地平民山崎武七外六十二名代官人

東京府神田區猿樂町二十一番地平民

被上告人

角田眞平

共有鰯網規定違變ノ訴東京上等裁判所ノ裁判不法ナリトシ破毀ヲ求ムル上告ノ要領左ノ如シ

第一條 原裁判所カ上告人ノ資金ヲ以テ設立シ今日迄所有シ來レル一疊ノ鰯網ノ所有權ニ關シテハ上告人ヲ以テ所有者トシ此レヲ設立シタルハ上告人ニアラス町民其人ニシテ上告人共ハ町民ノ總代人タルニ過キサルモノ、如クニ認定チ下セシハ不當ナリ其理由左ニ上告人カ所有者タル所以ノモノハ上告人ノ資力ヲ以テ上告人カ設立シ今日迄所持スル一疊ニテモ明カナリ設立トハ資力ヲ出シテ取設ケタルヲ謂フ道ハ天下普通ノ見解ナリ然ルニ上告第二號證ヲ以テ上告人ハ該網設立ニ付キ町民總代タリトセシハ誤

ナリ何者上告第二號證ニ所謂ル鰯網設立云々トハ即チ上告人ノ設立シテ所有セル一疊ノ鰯網ヨリ外ニハ無之サレハ上告人共カ居町下河原町ニ於テ之レヲ設立シ此營業ヲ爲スニ就キ他ノ營業者ト條約セシ規定書ニ豈ニ町民一同設立又ハ町民總代ノ意義ヲ合ムモノアラフヤ若シ夫レ此レヲ町民ノ設立ニ係ル證左トセハ上告人ノ所有ニハアラサルヘシ然ルチ町民ハ網子ナリ上告人ハ總代ナリト見做セシハ是レ不當ノ第一ナリ斯ク資ヲ入レ之ヲ取設ケ所有スルコトハ動スヘカヲサル事實ナルニモ拘ラス原裁判所ハ上告人共ヲ以テ尙ホ町民總代ナリト云ハ抑モ亦何ノ爲メノ總代ナルカ網子總代トアルヲ見テサル誤解ヲ來セシナラン網子トハ上告人ノ營業ニ從事スル漁夫ヲ云フ町民ノ謂ヒニ非ラス町民一同何カ爲メニ上告人ノ取設ケタル網ニ皆ナ網子トナルヘキソ凡ソ網子トハ豫定ノ人數アリ何人ニテモ能ク此業ニ從事シ得ヘキモノニアラス實際又未熟老若別ナク百余戸ノ町民悉ク網子タルヲ得ヘカヲサルモノナリトノ事

第二條 上告第二號證天王網々子トアルハ果シテ町民一同ノ謂ヒ歟網子ノ稱我國古ヨリ全國ニ之レアリ決シテ一地方ノ方言ニアラス蓋シ雅言ニ之ヲあてト云ヒ俗言之レヲゆんてト云フノ別ハアレヒ之レ町民又ハ村民ノ意義ニ用タル例アルナシサレハ證據ハ普通ノ義ヲ以テ解釋シ別段ノ證左アリテ始メテ他ノ意義ニ解釋スルコソ當然ノ解釋法ナレ故ニ網子ヲ解釋セハ網業ニ從事スル漁夫ト云フノ外ナカルヘシ之レヲ町民又ハ村民ノ義ナリトスルニハ別ニ慥カナル證左ナカルヘカラス原裁判所カ上告第二號證ノ網子トアルハ町民ノ意義ナリトシ別ニ證左ヲ以テ證明シタルニ非サル田中半平メ言ヲ採用

セシハ通義ニ悖レル裁判ナリ殊ニ町民ノコトニ關シ總代等ノ名稱ヲ用ルコトアレハ必ス小
前總代等ノ書式アリ且ツ其文言ニモ町民村民ノ總代タル旨明記シ來レルコト同町古來ヨ
リノ適例アリシ旨被上告ヨリ呈供シタル數多ノ證據物ヲ以テ上告人ヨリ證明シタル
所ナリ凡ソ事實ノ認定ハ控訴裁判官ノ職權内ニ之レアルヘケレトモ其認定スル所以ノ
理由正當ナラサルニ至リテハ大審院ノ當サニ破毀スヘキモノナランカ上告人謹テ按ス
ルニ原裁判官カ被上告人即チ町民ヲ以テ上告人所有網ノ網子ト爲シ上告人ハ其總代ナ
リシトノ不當ノ裁判ヲ下サレシハ上告人ニ取リテ甚タ遺憾ナリトノ事

第三條 田中半平ハ役人ニアラス是レテ役人ト云シハ深ク咎ムルニ及ハスト云ヘハ審理
ノ粗漏ナル裁判タルヲ表證スヘキ廉ニテ又田中半平ノ外ノ者皆ナ網子トハ町民ノ意義
ナル旨初審中ニ申立タル如クニ文ヲ舞セシモ初審書類ヲ一見シテ其非ナルヲ證スルニ
足レリ初審ニ召喚セラレシ半平杯ニ至テハ決シテ町民ニ訴訟ヲ起サシメタルモノニハ
之レ無カルヘク本訴勝敗ノ歸スル所自己ノ利害ニ關スルモノニテハ必ス之レアルマシ
クサラハ此人共證人タルヲ得ヘキ身分ナラン然レモ若シ本訴網子ノ義解ヲ此輩ニ採リ
テ無證ノ供述ヲ證據トシ町民ノ意ナルモノト判決シ得ヘキモノナランニハ裁判ハ此輩
ノ舌頭ニテ左右セラル、道理ナリ天王網既ニ上告人ノ設立シタル所有物タリシコト明了
セハ其網子トハ上告人ノ使用スル網子ノコトナル敢テ疑フヘクモアラズ半平等カ初審ニ
右様ノ言ヲ構ヘタル所以ハ天王網ヲ町民ノ共有ニナサントノ意ニ出タルニ外ナラスノ
ハ其證ノ見ルヘキモノアリ何ソヤ初審ニテ半平ヲ召喚セラレシ當時ニ在テハ原被ハ勿

論誰レモ共有論ヲナスヲ知リテ固ヨリ町民一同網子トナリ上告人ノ所有ナル網ニ取付
キ稼キヲ爲シ得ヘキ特權アリ杯ノコトハ夢ニテモ與知セサシモノナレハナリ初審判決
下リテ之レヲ奇貨トスルヲ知リシモノナルコト誣言ニテハ無之初審書類ニテ明カナリ然
ルニ田中半平ノ言ヲ採リシハ不當ナリトノ事

第四條 第二號證ハ未ダ町民一同ノ網子タル證據ト云フヘキモノアラサルハ勿論證據ノ
端緒ノ効タモ之レナシ其理何者全ク以テ上告人ト他町村内營業者トノ間ニ成立チシモ
ノニテ町民一同ノ毫モ關係ナ有シタル規定書ニアラサレハナリ爭訟ハ證據ノ端緒サヘ
之レアラハ裁判所ハ直チニ却下セサルコト我國ノ法ナレモ端緒ヲ以テ相手方ヲ強テ義務
者トスル能ハサルコトモ亦從テ我國ノ法ナリ然ルニ原裁判所ハ上告第二號證ヲ證據ノ端
緒トシ既ニ端緒アル上ハ人證ヲ以テ證據ノ効ヲ有セシムルモノトシ半平等ノ言ヲ引テ
判決ノ理由トシ人言ヲ證ニ取ルハ自カラ取ヘキ場合アルモノナリ然ルニ網子トハ町民ノ
意義ナリト云ヒシ半平ノ言ヲ取リテ證據ノ効ヲ付シタルハ不當ノ限リナリ尙ホ又進テ
之レヲ論セハ端緒アリ人證アリテ一ノ證據ノ効アリトスルモ其證據タル事理ニ適セス
實際ニ合ハス而シテ實跡其證據ノ如キニアラサルコトヲ證スル書證之レアラハ其比較テ立
チ然ル后チニ判決ヲ付スルコト裁判ノ法ナラン然ルニ原裁判ハ一方ノ者ノ爲メニ牽強附
會ノ證左ヲ構造シ上告人ヨリ屢々證明セシコトハ毫モ顧ミスシテ輕忽ニ判決ヲ下セシハ
不當ナリトノ事

被上告人ハ上告ノ不當ヲ論シ原裁判ヲ辯護セリ因テ辯明并判決ヲ與フルコト左ノ如シ

上告要領第一條ハ上告第二號證ニ所謂網子總代トハ町民總代ノ事ナリヤ將タ上告第三號證ニ定メタル網曳營業者ノ總代ナルヤヲ判定スルヲ緊要ナリトス抑上告第二號證ヲ案スルニ〔今般沼津下河原町ニ於テ天王網ト唱鯛網設立致候ニ付一同立會示談ノ上網津場相定〕云々トアリ此文言タル下河原町ニ於テ設立スト解スヘキモノニシテ而カモ其設立者ニアラサルヨリハ此ノ如キノ語ヲ下スト能ハサル道理ナリ然ルニ網曳營業者ハ何人ソ上告人等ニ雇使セラレヘキ傭夫ニ過キサレハ此ノ如キ輩ノ總代ト云ハ不都合ナルヘシ又同證但書ニ〔觀音道ト唱ルハ則淺間神輿道ニ紛無之今般境杭相建候間後年腐朽致候ハ、立會ノ上建替可申〕云々トアリ如斯契約ハ雇夫等ノ關係スヘキ事項ニアラサレハ亦以テ雇夫ノ總代ト云ハ不都合ナリトス加旃從前下河原町ニ於テ漁業ヲ營ミ來レル原因及ヒ納稅其外諸願屆等ヲ總テ伍長等總代トナリ負擔セシ事跡被上告第三號證ヨリ第十二號證ニ徴シテ歷々看ルヘキモノアレハ右總代トハ被上告者申立ノ如ク町民一同ノ惣代ト解スルヲ當然ナリトス況ンヤ上告第一號證ニ總代ノ明文ナシト雖モ〔是迄大破ニ及營業難相成候ニ付昨明治七年網數並魚漁多寡御取調ノ節相除不奉書上候處漸々修覆出來仕候間〕云々ト有ル如ク更ニ鯛網營業ヲ新設シタルニアラスシテ從來ノ鯛網ヲ修覆シタル旨趣ナルヲ明了ナルニ於テチヤ然リ而シテ上告者カ已ニ調成シタル一疊ノ鯛網へ被上告者於テ出金シタル證左ナケレハ上告者ノ所有ナリト看做サ、ルヲ得サルモノナルニヨリ原裁判所於テ網子總代ヲ町民總代ト解釋セシ末已ニ調成ナシタル一疊ノ鯛網ヲ上告人共ノ所有ト判

定シタルハ相當ノ判定ナリトス
 同要領第二條ヲ審按スルニ上告者ハ原裁判所ニ於テ網子ト町民トノ字義ヲ誤解シタルカ如ク申立レト下河原町人民ハ魚漁ヲ兼業スルカ故ニ漁業ニ關スル契約ヲ爲スニ於ハ概シテ網子ト稱スルモ敢テ不可ナキナリ故ニ伍長十二名カ町民惣代トナリ漁業上將來紛紜ノ生セサラン事ヲ謀リ他村企業者ト網津場經界ヲ定ムルニ當リ網子ト掲載スルハ至當ノ事柄ナルニヨリ網子惣代ハ即チ村民惣代ナリト判定シタリシトテ決テ網子ト村民トノ字義ヲ誤解シタリト云チ得サルモノトス
 同要領第三條ヲ審按スルニ田中半平ハ上告第一號第二號證ニ町用係ニテ調印セシモノナルカ故ニ原被兩造對審ノ節雙方ノ供述符合セサル場合ニアリテハ之ヲ證人トシ其伸陳スル所ヲ審明シ裁判ヲ與フルハ裁判上尤至當ノ事柄ナリ而シテ判文ニ舊役人田中半平云々トアリテ役人ニアラサル者ヲ役人ト爲シタルニアラサレハ之ヲ粗漏ノ裁判ト云チ得ス
 同要領第四條ハ同第二條第三條ノ辯明ニ依テ會得スヘシ

判決

右辨明ノ如クナルヲ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナキモノナリ
 但上告入費ハ上告者ニテ償却スヘシ

第五百七十五號

○ 贓物處分不當上告ノ判文 (明治十五年六月三日上告
 全 十五年十二月廿一日申渡)

福島縣岩代國會津郡若松第三十
一國立銀行頭取

上告人

平 田 次 七

東京府京橋區日吉町十九番地寄
留大坂府士族

右代言人

北 田 正 董

東京府日本橋區本船町十九番地
函館第百十三國立銀行支店副支
配人

被上告人

配人

被上告人

鈴 木 重 恒

右代言人

同府同區青物町二十五番地士族
仁 杉 英

贓物處分不當ノ一件東京控訴裁判所ノ裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル上告ノ要領左ノ如シ

第一條

本件ハ公訴ニ附帶シテ起ル所ノ私訴ナリ而シテ第三號ノ如ク茅野茂太郎ハ宣告セラレタル
公訴ノ判決ヲ私訴ノ裁判ト誤認シ上告者カ采野莊三郎ハ對シ其不當ナルヲ控訴セシニ東
京控訴裁判所ニ於テモ全シク誤認セラレ竟ニ第四號ノ如ク裁判セラレタリ之ヲ是レ本件
裁判ノ由テ以テ誤謬ヲ來タス濫觸ナリトス而シテ上告者カ夫ノ誤謬ヲ悟ル所以ノモノハ

十四年九月廿一日附即チ第一號ノ如ク刑事附帶ノ民事裁判ヲ被上告者ハ申渡サレタリト
及ヒ十四年十二月廿三日附即チ第二號ノ如ク上告者ハ申渡サレタル裁判ヲ相俟ツテ始メ
テ了解スルモノナリ故ニ十四年十月廿四日附即チ第四號ノ裁判ハ上告者カ誤謬ニ出テナ
シタル控訴ニ對スル裁判ナレハ徹頭徹尾其効ヲ生セサルハ理ノ當ニ然ルモノナリ

第二條

十四年十月廿四日附ノ裁判ハ其誤謬ノ訴ニ對シ其誤謬ノ裁判タルコトハ獨リ上告者カ知
覺ノミナラス復被上告者モ俱ニ了悟スルモノナルカ故ニ上告者ニ對スル十四年十二月廿
日ノ控訴ニ於ケルモ再訴ニ係ル等ノコトハ毫モ伸述セスシテ反テ私訴ノ裁判不當ノコトノミ
之ヲ論述シタリ而シテ上告者モ亦始審裁判ノ不當ニ非サルヲ辯駁セリ然ルニ對審ニ際シ
判官ハ反テ再訴ニ關スルモノ、如ク見ヘタリシカ故ニ上告者ハ前條ニ開陳シタル如ク誤
謬ニ出タル詞訟ナレハ最前ノ訴ハ無効ニシテ最後ノ訴訟コソ至當ナリ且再訴ニ非スト申
述シタリ然ルニ原裁判所ハ其判決中ニ云フ「明治十四年十月廿四日東京上等裁判所ニ於
テ(被告)采野莊三郎(被告)ニ於テ中畧仍テ原告ノ請求不相立義ト可相心得」ト終審裁判ヲ言渡
サレタル以上ハ明治十四年九月廿一日東京裁判所ニ於テ言渡シタル裁判ハ其効ナキニ付
到底被告ハ原告ニ抗拒スヘキ條理ナシトス」ト裁判セラレタルハ果シテ何ノ理由ニ因リ然
ルカ真ニ根據ナキ裁判ト云サルヲ得ス何トナレハ最前上告者カ控訴ヲナシタルハ茅野茂
太郎ハ對スル刑事ノ公判ニ對シテ之ヲ爲シタルモノニシテ原被兩造ニ關スル民事ノ裁判
ニ非サルハ乃今ニシテ識者ヲ俟スシテ能ク知了スルヲ得ヘキモノナリ然リ而シテ上告者ハ

之ヲ誤認シテ采野莊三郎へ對シ二千五百圓ノ公債ヲ追徴アラントテ求メタリ是レ裁判ノ下ラサルニ先ツテ控訴ヲ爲シタルモノナリ而シテ今回ノ訴訟ハ上告者ト被上告者トノ關係ニ其ノ需ムル處ノ公債額ハ千四百圓ナリ夫レ此ノ如ク被告ト云ヒ金額ト云ヒ何レモ異ナルモノナレハ之ヲ再訴トスルノ理アラザヤ果シテ再訴ニ非ス又誤認シタルモノトセハ十年九月廿一日東京裁判所ニ於テ言渡サレタル裁判コソ充分ノ効力アルコト復タ明ラカナリ故ニ此判決ニ因リテ當否ヲ論スヘキモノタル以上ハ其不當ニ非サルヲ陳セントス

第三條

東京始審裁判所カ竊取スル贓物ヲ區分シテ其實拂ニ係ル分即チ千四百圓ノ額ハ追徴セズシテ其抵當ニ關スル分即チ千四百圓ノ額ノミチ追徴ノ事主ヘ返還スルハ至當ナリ之ヲ舊刑法ニ徴スルニ給没贓物例ニ正贓現在スルモノハ追徴シトアリ又買取シテ公商公買ニ因ル者ハ正贓現在スト雖モ商買其價ヲ償ハサルハ直ニ追徴スルコトヲ得ストアルモ抵當ニ取リシモノハ追徴スルコト勿レトノ成文アルニアラサレハ追徴スルコトヲ得ルハ當然ナリ何トナレハ抵當ハ主タル目的ニアラス從タル目的ナレハナリ是故始審廳カ賣渡ト抵當トヲ區分シテ追徴シタルハ法律ニ適キシタル裁判ナリトス

第四條

前條々ニ陳述スル如ク最前ノ訴訟ハ其判決ノ未タ下ラサルニ先チ采野莊三郎へ對シ二千五百圓ヲ要求シ今回ノ訴訟ハ被上告ヨリ上告ヘ對シ千四百圓ノ公債ノ追徴ヲ抗拒セラレタルニ起因セシモノナレハ前訴ト後訴トハ金額及ヒ原被告異ニスルモノニシテ之カ再訴ト

云フヘカラス好シ又再訴ニモセヨ前ノ訴ル誤認ニシテ爲スヲ得ヘカラスモノナレハ之カ相觸ル、ニ於テハ其孰レヲ正理公道ト云フヲ推究セサル可ラサルニ控訴廳ハ正理公道如何ト再訴ト否トヲ詳悉セズ初審廳ノ私訴ノ裁判ヲ無効ト言渡サレタルハ尤モ不法ノ裁判ト思考ス

被上告人カ本案上告ノ旨趣ニ對シ原裁判ノ不法ナラサルヲ辯護スル要領左ノ如シ

第一條

抑モ上告者カ采野莊三郎へ係リ爲シタル控訴ハ誤認ナリシト謂フモ其何ニ因テ誤認ナリトスルヲ得ルヤ上告者ハ未ダ曾テ之カ證明ヲナサ、ルナリ而シテ若シ一步ヲ讓リ之ヲ誤認ニ起因シタルモノト假定スルモ該件ハ既ニ東京上等裁判所ノ判決確定シタルモノナレハ今更誤認ナリト論スルヲ得スシテ確定裁判ナルモノハ假令ヒ如何ナル事實アルモ本院ニ於テ破毀セラル、外決シテ動かサテ得サルモノナルハ法ノ原則ナルヲハ敢テ被上告ノ喋々ヲ要セサルモノナリ況ヤ其誤認ナリトスルノ點ハ特ニ訴訟ノ手續ニ屬シ且上告者自ラ之ヲ爲シタルモノナレハ自己ノ誤認ハ即チ自己ノ責ナルノ法語ニ於テ宜ク自ラ責ムヘクシテ之ヲ他人殊ニ裁判權ニマテ及ホシ以テ東京上等裁判所ノ裁判ハ効チ生セサルモノ等ノ語ヲナスハ實ニ不當ヲ極メタルモノト謂フヘシ

第二條

上告狀第二條ニ於テ上告者ハ再訴云々ヲ論スレモ本件ノ先キノモノト原被告金額トテ異ニシ再訴ニ非サルヲ被上告モ固ヨリ知了スル處ニシテ原裁判所ニ於テモ曾テ再訴ナ

リト判決サレタルヲアラサルナリ唯本件千四百圓ノ公債證書ノ明治十四年十月廿四日ノ
裁判ニ係リタル公債證書額面貳千五百圓ノ一部ナルヲ察セサルヘカラスシテ該判決ニ
於テ上告者ハ其公債證書ノ追還ヲ求ムルヲ得スト申渡サレ上告者ハ此裁判ニ甘服シ而シテ
其判決ノ前條申陳スル如ク動カスヲ得サル以上ハ更ニ其判決ノ一部分ナル公債證書ヲ被
上告ニ對シ要求シ得サルヤ勿論ナリ之レ如此ノ事理ナレハ先ノモノト其原被金額ヲ異ニ
シ再訴ニ非サルモ先キノ確定裁判ハ本件上告者ノ要求ヲ阻過スルモノナルヲ以テ之本
件判決ノ材料トナシタルハ當然ノ事ニシテ先ニ上告者ニ要求ノ權ナシトサレタル確定裁
判ハ決シテ動カスヲ得サルヲ以テナリ

第三條

上告狀第三條ニ於テ贓物追還ニ付云々スル所アルモ本件公債證書ハ第三十一國立銀行支
配人茅野茂太郎ト其當然ノ權利ヲ以テ處分シ得ヘキ公債證書ヲ采野庄三郎ニ抵當トナシ
再ヒ之ヲ被上告者ヘ抵當ニ取リタルモノナレハ固ヨリ贓物ト謂フヲ得スシテ良シヤ贓物
ナリトスルモ茅野茂太郎ハ銀行支配人ニシテ采野庄三郎ハ公債買買抵當貸等ヲナスモノ
ナレハ彼ノ所謂ル公商公買ニ由リタルモノナレハ舊法ノ明文ニ於テモ追徴セラルヘキモ
ノニ非スシテ上告者ハ偏ニ舊法買取ノ文字ニ固着シ抵當ニ取リシモノハ追徴スルヲ勿レ
トノ明文ナシト論スレ由改定律例第五十一條ノ精神タル畢竟買得者カ正當ノ順序ヲ以テ
得タル權利ヲ害スル能ハスト謂フニ在リテ抵當ハ所有ヲ移スモノニ非サルモ債主チシテ
該物件ニ付特別ノ關係即チ物上權ヲ得セシムルモノニシテ其所有者ハ唯虛有權アルニ過

キス其効所有ヲ移シタルト殆ント逕庭アラサルナリ故ニ自己ノ所有物ト雖モ典物トシテ
他人ニ交付シタルモノヲ竊取シタル時ハ竊盜ヲ以テ論セラル其竊取シタル者ニシテ他ノ
所有品ヲ盜ムト同視サレルハ之ニ附帶スルノコトニ至テモ亦同一ニ論セサルヲ得サレハ決
シテ直ニ追徴セラルヘキモノニ非サルヲ以テ東京裁判所カ被上告ニ對シ申渡サレタル宣
告ハ不當ナルノミナラス東京上等裁判所ノ確定裁判ト抵觸スルヲ以テ無効タルヘキハ復
論ヲ俟タサルナリ

第四條

前條陳述スルカ如ク原裁判所ハ本件ヲ再訴ナリトシ判決サレタルモノニ非スシテ前確定
裁判ニ準據シ以テ東京裁判所ノ宣告ヲ無効ナリト裁判セラレタルハ能ク法理ニ適ヒ又事
理ヲ悉シタルモノナレハ決シテ破毀スヘキ原由アラサルモノナリ

辯明

本案贓物ノ還給タルヤ曩ニ上告人ヨリ采野庄三郎ニ對シ東京上等裁判所ヘ控訴ニ及フモ
上告人ノ要求ハ擯斥セラレ其裁判ノ確定スルニ至リタレハ今更上告人カ誤想ニ出タル控
訴ニ對スル無効ノ裁判ナリトシテ之レテ度外ニ附スルヲ得可カラサルモノトス而シテ今
回ノ贓物タル即チ上告人カ采野庄三郎ニ對シ做シタル要求中ノ一部分ニシテ且其情狀ニ
於ケルモ前訴ト異ナルニアラサレハ東京裁判所ニ於テ言渡シタル本案ノ裁判ハ前訴ノ確
定裁判ニ抵觸スルモノトス仍テ原裁判所カ東京裁判所ノ裁判ハ其効ナシト裁判シタルハ
固ヨリ當然ノ筋合ニシテ本案上告ノ旨趣ハ原裁判ノ破毀ヲ要ムル原由ト做シ難シトス

但本文ニ說明スル如クナルヲ以テ東京裁判所ノ裁判當否ニ就テハ判定ヲ與フヘキ限ニ非トス

判決

右ノ次第ナルヲ以テ東京控訴裁判所ノ裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス
但上告入費ハ上告人ヨリ辨償スヘシ
第五百七十六號

○貸金催促上告ノ判文(明治十五年七月十四日上告
全十五年十二月廿一日申渡)

東京府淺草區新福井町四番地平民
民矢盛善兵衛同居平民

上告人

古 屋 久 平

右代人

右同町三番地寄留山梨縣平民
守 屋 團 右衛門

山梨縣甲斐國東山梨郡八幡村四
百二十二番地平民

被告上告人

古 屋 勘 兵 衛

貸金催促一件東京控訴裁判所ノ裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル上告ノ主點左ノ如シ

第一 上告人ハ初審廳へ印影比較ノ爲メ養父丹右衛門カ名主勤役中夫錢割帳ヲ提供シ控訴ニ及ンテハ更ニ丹右衛門カ自筆實印ノ證書ヲ提供シテ印影筆跡ノ鑑定ヲ請願セシニ

終審裁判所ハ之レヲ許可セズ不完全ナル被告上告第一號證ヲ採用セシトノ事

第二 初審裁判所ニ於テハ何ノ日ニ印影ノ鑑定アリシヤ上告人ニ之レヲ知シメスシテ突然裁判言渡サレタル旨控訴ニ及ンテ申立テ置キタルヲ初審廳鑑定ノ儘ニテ裁判言渡サレタリトノ事

上告退申書ノ主點左ノ如シ

第一 被告上告人ノ申立ニ依レハ本訴ノ金圓ハ明治八年中金六十圓三厘日歩ノ貸金ヨリ起リ明治十三年八月二日ニ到リ元利ヲ合計シテ百七十圓ノ證書ニ改正セシ趣ナレトモ被告上告人ハ明治八年中犯罪ノ爲メ懲役ニ處セラレタルハ貸付ノ時日ト懲役ノ時日ト審理スルハ緊要ナルニ其義ナカリトノ事

第二 被告上告人ハ明治八年ノ比殊更困窮ニシテ家屋敷等ヲ賣却シ他ニ借家セシ場合ナリ若シ此貸金ハ家屋敷等賣却ノ後ナリトセハ不都合ノ事實ナルヲ是等ノ審理モナカリシトノ事

第三 被告上告者申立ノ如ク明治八年金六十圓ヲ三厘日歩ニテ貸付ケタリトセハ明治九年一月一日(八年ノ月日分明ナラサルカ)ヨリ起算スルモ第一號證ノ日付ケナル明治十三年八月二日ニ到レハ二百九十九圓餘ヲラサルヘカラス然ルニ百七十圓ナルハ信スヘカ
ラサル一點ナリトノ事

第四 被告上告人ハ明治十一年中矢崎源七ニ僅カナル負債アリシカ爲メ身代限ノ處分ヲ受ケタリ若シ今般請求スルカ如キ貸金アラハ身代限ヲ爲スノ謂レアラス且身代限財產取

調帳ニモ貸金證書ノ記載ナキハ信スヘカラサル一點ナリトノ事
被上告人ハ上告ノ不理ニシテ原裁判正當ナル旨辯護セリ

判決

本按ハ初審裁判所ニ於テ上告人カ印影比較ノ爲メ提供セシ夫錢割帳ノ印影ト拒障アル被上告第一號證ノ印影トヲ鑑定セシメタル處同印ト鑑定セシニヨリ上告人敗訴ノ言渡シヲ受ケタルモノトス上告人此裁判ニ承服セス控訴ニ及ンテ他ノ比較證書ヲ提供シ印影ノ再鑑定ト筆蹟ノ鑑定ヲ求メタリ然ルニ控訴廳ニ於テハ始審廳ニ於テ既ニ印影ノ鑑定アリシ上ハ再ヒ鑑定セシムルヲ要セスト認メシヤ初審ト同シク上告者ニ敗訴ノ言渡シヲ爲シタリ依テ初審以來ノ書類ヲ審査スルニ本按ハ初審廳ニ於テ命シタル印影ノ鑑定ノミニヨリ未タ判決ヲ爲スヘカラサル理由アリ即左ノ如シ

第一 被上告第一號貸主ノ判取帳ニ記載セシ證書ハ借主ノ自署ナリト云フ果シテ然ルヤ否

第二 保證ノ義務ヲ負擔セシ加判人佐藤五郎兵衛ハ此證書ノ成立ヲシ明治十三年ニハ身代限處分中ナリシ旨果シテ然リヤ否

第三 被上告人ハ明治十一年中矢崎源七ヘ負債ノ爲メ身代限ノ處分ヲ受ケタルニ當時ノ財産調書貸付金アル事ノ記載ナカリシ趣果ノ然リヤ否

第四 明治八年六拾圓ヲ三厘日歩ノ利子トセハ明治十三年八月二日迄ノ元利百七十圓ニ符合セス又高利ナル三厘日歩ノ元利ヲ證書ニ結ビシ以後ハ順ニ利息ノ契約モナキハ彼

是不都合ノ事ニハ非サルヤ

右等ノ件々ハ原裁判所ヨリ送致スル處ノ書類中ニ散見シ皆緊要ノ事柄ト見ユ故ニ本訴ハ右等ノ廉々ヲ審究シ始メテ判決ヲナスニ至ルヘク未タ必シモ初審廳ノ命シタル印影ノ鑑定ノミニ依據スヘカラサルモノトス然ルニ東京控訴裁判所ノ覆審茲ニ出テサリシハ不備ノ裁判ナルヲ以テ之ヲ破毀シ更ニ名古屋控訴裁判所ヘ移スニヨリ其裁判ヲ受クヘキモノナリ但上告入費ハ被上告人之ヲ擔當スヘシ

第五百七十七號

○貸金催促上告ノ判文(明治十五年十月三十一日上告)
全 十五年十二月廿一日申渡

茨城縣常陸國新治郡石川村平民

上告人

福田 辰之助

東京府日本橋區吳服町一番地寄

留茨城縣平民

右代言人

岡野 寬

茨城縣常陸國新治郡三村平民利

左衛門跡相續人本田由之丞後見

人

被上告人

本田 齊助

貸金催促一件上告人ニ於テ東京控訴裁判所ノ裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル上告ノ要領左ノ

如シ

第一條

一本訴ハ明治十五年三月十一日ヲ以テ被上告本田齊助ヘ對シ土浦始審裁判所ヘ起訴シ而シテ全年五月三十一日裁判宣告ヲ被リタリ上告者ハ該裁判ニ服從スル能ハス同年八月廿六日ヲ以テ東京控訴裁判所ヘ扣訴致シタルニ同應ハ判文ニ掲ケテ「茨城縣下ノ人民カ明治十五年四月廿六日控訴上告手續第五條改正ノ布告ヲ周知セシハ明治十五年六月二十日ナレハ同日ヨリ二ヶ月ヲ計算シ尙ホ二日ノ猶豫ヲ與フルモ扣訴期限ノ經過スルヲ六月ナリ云々」控訴狀却下候トテ即チ上告者カ控訴ヲ採用セラレサル者不法ト相心得是レ上告者カ本院ニ向ツテ破棄ヲ乞ハント希望スル所以ナリ

第二條

一原控訴廳カ明治十五年四月廿六日扣訴手續第五條改正ノ公布ヲ周知セシハ明治十五年六月廿日ニシテ上告者カ扣訴ノ日ハ其扣訴期限ヲ經過スル六日ナリトテ却下セシ所以ノモノハ上告者ノ氷解スル能ハサル所ナリ何トナレハ法律ノ改正ハ來ル何年何月ヨリ施行(新刑法治罪法ハ十五年)スヘキノ命令アルニ有ラサルヨリハ即チ人民周知ノ日ヲ以テ新舊相別ルハノ期トスルモノナレハ也夫レ既ニ周知ノ日ヲ以テ新法實施ノ期ト確定スル上ハ決シ之ヲ既往ニ及サ、ルヤ明ナリ然ハ上告者カ明治十五年五月三十一日始審廳ニ被リタル宣告ハ素ヨリ明治九年(十年ノ誤)第十九號扣訴上告手續第五條ニシテ即チ九十日間ノ控訴期限ヲ有スルヤ又タ明瞭タリ然ルニ扣訴廳ハ已ニ被リタル裁判ヲ周知ノ當日ヨ

リ新法ニ引キ直シタルハ尤モ不法ノ裁判ト思考セサル也若シ夫レ控訴廳ハ我邦各府縣ノ人民周知ノ當日ニ至ル迄ハ控訴期限ヲ中斷シ即チ周知當日ヨリ更ニ施行セントスル乎否決ノ然ラス素ヨリ周知ノ日ヲ以テ新舊ノ區別ヲ立テ居ルニアラスヤ依之觀之周知以前ニ於テ舊法ヲ用ユルヲ復タ以テ證スルニ足ルヘシ尙ホ且ツ例ヲ示サシニ我邦利息制法ハ明治十年六十六號公布ニ依リタルモノナリ而シテ該公布周知當日以前ノ利子契約ハ縱令高利タリト雖モ効力アリト裁判セラレタルハ一ニシテ足ラス況ンヤ人民ト官廳トノ伸縮ニ於ケル人民ヲシテ伸ナラシムルハ尤モ理ニ適シタルモノナルオヤ乞フ其理由ヲ述ヘン今茲ニ刑事裁判ヲ宣告セラル、モ其上訴ノ期限ハ翌日ヨリ起算シ之レニ反シ服役ノ期限ハ宣告當日ヲ以テス又タ民事裁判ノ如キモ宣告翌日ヨリ期限ヲ起ツ之レ即チ官ニ訴フル可成伸張ヲ與ヘラレタルモノト信認ス今マ控訴期限ノ如キニ至ツテハ周知當日以降ニ於テ宣告ヲ受ケタルモノハ則新法ノ短キヲ以テシ周知以前ハ舊法ノ長キヲ以テスルハ蓋シ專ラ法律ヲ確守スルモノト云フヘシ夫レ如斯ナルヲ以テ既ニ上告者カ開伸スル如ク東京控訴裁判所カ明治十五年九月二日控訴狀ヲ棄却シタルハ不法ノ裁判ト思考ス

辯明

上告人ニ於テ明治十五年第廿一號布告(明治十年第十九號布告控訴上告手續第五條中)ハ人民周知日限以前ニ受タル裁判ニ適用スヘキモノニ非サル旨申立レテ抑舊法改正ノ精神タル其期限ノ長キニ過クルヲ以テ相當ノ期限即チ二ヶ月ト指定セラレタルモノナレハ周知日限ヨリ起算シ新法ノ期限ニ從ハシムルモ控訴手續ヲ爲スニ不都合アルヘキ理ナシ尤

モ周知日限以前ニ宣告シタル裁判ニ適用スルモ或ハ舊法(十年第十九號)ノ控訴期限三ヶ月ヨリ減縮スルコトアルモ人民既得ノ權利ヲ害スルモノニ非スシテ上告人ガ引例スル利息制限法ノ如キモノト大ニ異ナルモノトス然レハ原裁判所カ周知ノ日ヨリ新法ノ期限二ヶ月ヲ起算シ本訴ハ已ニ其期限ヲ經過シタルモノトシ控訴狀却下セシハ相當ナリトス但種々申立ル廉アリト雖モ已ニ緊要ノ點ニ對シ辯明セシヲ以テ一々辯明セス

判決

右辯明ノ如クナルニ依リ東京控訴裁判所カ明治十五年九月二日本訴貸金催促一件ニ與ヘタル裁判ハ破毀スヘキ理由ナシトス但上告入費ハ上告人辨納スヘシ
第五百七十八號

○共有地々券書換請求上告ノ判文(明治十五年二月二十五日上告) 全十五年十二月廿三日申渡

長野縣信濃國南佐久郡御所平村

平民

上告人

由 井 茂 平

東京府神田區美土代町二丁目一

番地寄留長崎縣平民

本 多 潤

右代言人

長野縣信濃國南佐久郡御所平村

被上告人

平民由井源八外五十六名總代兼
同村平民

由 井 久 平

外二名

東京府京橋區三十間堀三丁目五

番地平民

星 亨

右代言人

共有地々券書換請求一件上告人ニ於テ東京上等裁判所ノ裁判ヲ不法トシ破毀ヲ求ムル上告ノ要領左ノ如シ

第一條 論地ノ内荒地ノ分ヲ論ス

本訴ノ地所ハ二ヶ所ニシテ荒地三反七畝十五歩ハ原村平民新海長平ナルモノ、所有ナリシテ明治八年十二月一日乙第一號證ヲ以テ上告人へ買受ケ乙第二號證ノ通地券書換へ願ヲナシテ上告人へ地券ヲ受ケ乙第十號證ノ通り名寄帖上告人ノ坐ニ記載アレハ上告人ノ所有ナルコト判然ニシテ被上告等ノ共有ナリトノ證憑トテハ毫モ無之ノミナラス乙第八號證ハ被上告等ノ共有地ヲ取調ヘタル帖簿ナル論地ヲ記載ナキニヨレハ論地ハ上告人ノ所有ナルコト判然ナルノミナラス却テ被上告ノ所有ニアラストノ證據充分ナルモノナリ而シテ甲第三號證ハ乙第十二號證ノ事實ナリシニ相違ナキノミナラス「今般投票ニテ御拂ノ趣」トノ文言ハ決シテ共有タルヲ認メ得ラルヘキモノニアラサルノミナラス共有地ヲ投

票シタルコトモ無之ニ原裁判所ハ上告人許多ノ證據物ヲ参照セズシテ「今般投票ニテ御拂ノ趣ノ文言ヲ以テ共有タルノ明文ナリトシ」甲第三號證ニ今般投票ニテ御拂ノ趣キニ付云々ノ明文アルヲ以テ云々該投票ハ則チ共有地難賣ノ際用ヒタルモノト推定ス」ト判決セラレタルハ不法ナリ

第二條 論地ノ内荒地ノ分テ論ス

甲第四號證ハ被上告等ノ隨意ニ作爲シテ被上告等ノ所持スルモノナレハ決シテ上告人ニ對シテ證據トナルモノニアラス甲第十一號證乃至甲第十四號證ハ租稅取立帖又ハ租稅受取通帖ト題シアレトモ被上告カ隨意ニ作爲シテ自ラ之ヲ所持スルモノニシテ被上告ニ於テモ自分等ノ所持スルモノナリ村役場ヨリ借受ケタルニアラスト明言シ且其記載スル所モ小作等ヲ書記シアリテ役場ニ於テ取扱フタルモノニアラス之レニ押捺スル印影モ被上告等ノ印影ナレハ決シテ他人ニ對スル證據トナルモノニアラス之ヲ持テ見ルヘキモノニアラサルコト原裁判所ハ如何ナル見解ヲ以テヤ判文ニ「尙甲第四號甲第十一號乃至十四號ハ與カリテカアル證據ト認メ得ヘキモノトス」ト判決セラレタルハ實ニ解ス可ラサルコトニシテ不法ト信ス

第三條 論地ノ内荒地ノ分テ論ス

上告人カ甲第三號證ノ投票ヲナシタルハ論地ニ反七畝十五歩ノ地ハ新海長平ヨリ買受ケタルモ荒地ニテ使用方法モナキニヨリ由井喜太郎外四名ト共ニ之ヲ共有トシテ桑苗等ヲ植付クヘシト約シ代金ハ右五名ヨリ上告人ヘ拂フヘクト定メタレトモ一人モ代金ヲ渡サ、ルニヨリ更ニ相談シテ一旦上告人ハ已ニ五名ヨリ代金ヲ取リテ共有セント約シタルヲ以テ假リニ之ヲ六名ノ共有ト定メ六名ニテ互ニ投票シテ落札シタルモノハ一人ニテ論地ヲ所有シテ代金ヲ上告人ヘ拂フヘシト約シテ乙第十二號證ヲ受取リテ投票シタルモノニシテ全ク論地ヲ賣リタキ念慮ヨリ爲シタル事ナリトス而シテ甲第三號證ニ「投票ニテ御拂ノ趣」云々ノ文言ハ決シテ上陳ノ事實ニ抵觸スルモノニアラサルニ原裁判所ハ「甲第三號證ニ今般投票ニテ御拂ノ趣キニ付云々ノ文言アルヲ以テ其辯論及ヒ乙第十二號證ハ信用シ難シト判決セラレタルハ不法ナリ又右ノ事實アル上ハ自己ノ所有地ナリトモ投票スルノ理ナシト斷定スヘカラサルニ「自己ノ所有地ヲ自己ニ投票シテ買受ケント試ムヘキ理由ナケレハナリ」ト判決セラレタルハ不法ナリトス

第四條 論地ニ筆共ニ關スルコトヲ論ス

判文中「當時原告ハ戸長ナリシニ付」云々トアレトモ上告人ハ曾テ戸長ノ補助者ナル用係リタル職務ニ任セラレタルコトアレトモ嘗テ戸長ヲ務メタルコトナシ縱令戸長ナリシトスルモ論地ノ共有タルノ證據トナルヘキ理ナシ如何トナレハ當時戸長村總代及ヒ代議人地券總代等ノ役員アリシニヨリ一村共有地ノ名義ヲ假ラントセハ用係リ役ノモノ、ミチ要スルノ理ナキノミナラス現ニ明治九年一村共有ノ地所取調帖ヲ見ルニ名義ヲ假リテ地券ヲ受ケタルハ代議人及ヒ地券總代等ノミニテ上告人ハ嘗テ共有地ノ名請人トナリシコトナキニアラスヤ然ルチ用係リナリシチ戸長ナリシト爲シ以テ共有地ノ名受人タル證據トセラレ前掲

ノ如ク判決セラレタルハ不法ナリ

第五條 論地二筆共ニ關スルヲ論ス

被上告等ハ從來ノ役場帳簿ヲ引續カスシテ之ヲ隱藏シアルヲ以テ帳簿ノ末尾等ニ一村人民ノ連印アルモノ又ハ上告人ノ押印アルモノヲ所持スルモノナリ故ニ本訴ノ證據トシテ呈供シタル書類ハ都テ後日ノ入筆又ハ改作ニ係リタルモノニシテ一モ真正ノモノ無之就中甲第十八號證ノ如キニ至リテハ前後ノ紙質同シカラス中間ニ垢付キタル紙アリ外面ニハ都テ新鮮ナル紙アリテ綴目印ナキノミナラス其記載スル所半枚ニ五行ナルアリ四行ナルアリ筆跡モ異ニシテ後日ノ記入ニ係ルヲ判然ナル場所等アリ其偽造改作ナルヲ判然ニシテ且上告人ノ乙第八號證ト同一ノ帳簿ナレハ被上告等ノ作為シタルモノナルヲ論テ俟タス如何トナレハ一箇ノ事ニ付テ二通ノ帳簿アルノ理ナケレハナリ殊ニ被上告自ラ被上告ニ私藏スルモノナリト云フ上ハ決シテ證據トナルモノニアラサルナリ之レコ反シテ上告人ノ乙第八號證ハ現ニ役場ニ寶藏スルモノニシテ被上告等ノ連印アリ紙毎ニ綴目印アリ前後紙質同シシ筆跡異ナルヲナケレハ公正ノ書類ナルヲ論テ俟タス且上告人ハ原裁判所審廷ニ於テ被上告ノ書類ノ改作ト見ルヘキ廉々チ一々判官ノ認メラレシヲ乞ヒ判官モ一々之ヲ認メラレタリ然ルニ判文但書ニ乙第八號證ヲ甲第十八號證ト同様不真正ナルモノ、如ク採用セラレカリシハ不法ナリ又乙第十號證ハ村役場名寄帳寫ニシテ其相違ナキコナ戸長ニ於テ明治十四年一月十同シ十二月十同ト兩度迄其相違ナキヲ保證シタルモノナリ然ルニ判文但書ニ「採用セス」ト申渡サレタルハ不法ナリトス

第六條 論地宅地ノ分ヲ論ス

論地宅地八畝九歩ハ從前官有ナリシヲ還祿士族金井吉元ナルモノ拂下ケタル乙第三號證ノ通り上告人へ買受ケルノ約ヲ爲シ乙第四號證ノ通り拂下ケ代價ヲ縣廳へ上納シ乙第五號證ノ通り地券書換願ヲナシテ上告人へ地券ヲ受ケ乙第六七號證ノ通り其證印稅ヲ上納シ乙第十一號證ノ通り其租稅ヲ上納シ乙第十號證名寄帳上告人所有地ノ部ニ記載アレハ上告人ノ所有ナルヲ明瞭ナルノミナラス被上告ハ之ヲ共有ナリト云フモ其證憑毫モ無之却テ一村ノ共有地ヲ取調ヘ記載シタル乙第八號證ニ記載ナキヲ見レハ被上告等ノ共有ニアラサルヲ判然ナリトス然ルニ原裁判所ハ上告人數多ノ證據物ニ對シテ一ノ辯明モナク又被上告ノ所有ナリトノ説明モナサシテ判文ノ結末ニ至リテ突然「該論地ハ一村ノ共有ナリト認定ス」ト申渡サレタルハ最モ不當ノ裁判ナリトス

辯明

第一條

本訴論地二筆ノ内字宮下荒地三反七畝十五歩ノ地ハ上告人ノ私有地ナルヲ將テ一村ノ有地ナルヲ審按スルニ上告人ニ於テハ乙號數證ヲ掲ケ其私有地ナルヲ證明スレハ被上告甲第三號證(論地ノ内荒地三反七畝十五歩)ヲ關スルニ「字宮下田荒地三反七畝十五歩今般投票ニテ御拂ノ趣ニ付左ノ金額ニテ申請度候」トアリ上告人カ果ソ右荒地ノ眞所有主ナレハ如斯投票ヲ爲スヘキ謂レナシ尤モ上告人ハ其乙第十二號證ヲ掲ケ右甲第三號證ハ